

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	会計学Ⅰ（AccountingⅠ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	上野 清貴								
履 修 条 件	前提科目	簿記論Ⅰ・Ⅱ							
	そ の 他	なし							
授業概要： 会計学Ⅰでは、会計の意義と領域、会計の法的制度、会計の基本構造、利益計算の基本原則をまず解説する。これまでは会計学の総論であるが、次に、会計学の各論を解説する。それは、現金・預金と金銭債権の会計、有価証券の会計および棚卸資産の会計である。									
授業目標： 会計学Ⅰおよび次の会計学Ⅱは、最新の会計基準や会計法を取り扱いつつ、会計の意義から考察を始めて、貸借対照表および損益計算書における各項目の会計処理を全般的に理解し、会計手続の最終段階である財務諸表を正式に作成できるようにすることを目標としている。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	会計の意義と領域（1） 会計の意義を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 90分	
2	会計の意義と領域（2） 財務会計と管理会計など、会計の領域を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 90分	
3	会計の法的制度（1） 会計の規制に関する法律を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 90分	
4	会計の法的制度（2） 金融商品取引法会計等を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 90分	
5	会計の基本構造（1） 会計公準を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 90分	
6	会計の基本構造（2） 企業会計原則の趣旨と歴史を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 90分	
7	会計の基本構造（3） 企業会計原則の一般原則を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 90分	
8	利益計算の基本原則（1） 財産法と損益法を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 90分	
9	利益計算の基本原則（2） 資産負債観と収益費用観を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 90分	
10	現金・預金と金銭債権の会計（1） 現金・預金の会計処理を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 70分 設例の計算 20分	
11	現金・預金と金銭債権の会計（2） 金銭債権の会計処理を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 70分 設例の計算 20分	
12	有価証券の会計（1） 有価証券の意義と分類を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 70分 設例の計算 20分	
13	有価証券の会計（2） 有価証券の会計処理を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 70分 設例の計算 20分	
14	棚卸資産の会計（1） 棚卸資産の意義と範囲を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 70分 設例の計算 20分	
15	棚卸資産の会計（2） 棚卸資産の会計処理を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 70分 設例の計算 20分	
教本：上野清貴著『財務会計の基礎（第5版）』中央経済社									
参考文献：									
成績評価の方法、評価基準： 毎回提出のレポートで評価する。									
学生へのアドバイス： 日々の予習復習を怠らないこと。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	会計学Ⅰ（AccountingⅠ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	高橋 琢也								
履 修 条 件	前提科目	簿記論Ⅰ・Ⅱ							
	そ の 他	なし							
授業概要： 会計学Ⅰ・Ⅱでは、財務会計について取り扱う。財務会計は、企業が、外部の利害関係者に対して財務諸表等の財務情報を報告する会計領域である。企業の作成する財務諸表に対する理解を深めるようにする。なお、各回の最初に理解度の確認として、前回の内容の小テストを実施する。									
授業目標： 会計の意義や役割、個別論点における処理と知識について理解することを目標にする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	アカウントビリティ・会計公準 企業が会計する理由と会計公準について解説する。					事前：テキスト14-21頁 事後：復習ノートの作成		講義 90分	
2	財務諸表の特徴 貸借対照表と損益計算書の特徴について解説する。					事前：テキスト22-33頁 事後：復習ノートの作成		小テスト 20分 講義 70分	
3	簿記1（取引と仕訳） 簿記一巡の手続きの仕訳について解説する。					事前：テキスト36-45頁 事後：復習ノートの作成		小テスト 20分 講義 70分	
4	簿記2（勘定と試算表、決算整理） 簿記一巡の手続きの仕訳以降の手続きについて解説する。					事前：テキスト46-51頁 事後：復習ノートの作成		小テスト 20分 講義 70分	
5	企業会計原則・一般原則 企業会計原則における一般原則について解説する。					事前：テキスト54-67頁 事後：復習ノートの作成		小テスト 20分 講義 70分	
6	損益計算書原則 損益計算書原則について解説する。					事前：テキスト68-77頁 事後：復習ノートの作成		小テスト 20分 講義 70分	
7	貸借対照表原則 貸借対照表原則について解説する。					事前：テキスト78-81頁 事後：復習ノートの作成		小テスト 20分 講義 70分	
8	収益認識 収益認識の手続きについて解説する。					事前：テキスト84-91頁 事後：復習ノートの作成		小テスト 20分 講義 70分	
9	収益認識の具体的処理・債権 特別な取引と債権について解説する。					事前：テキスト92-100頁 事後：復習ノートの作成		小テスト 20分 講義 70分	
10	棚卸資産 棚卸資産とそれに関わる処理について解説する。					事前：テキスト102-110頁 事後：復習ノートの作成		小テスト 20分 講義 70分	
11	固定資産・減価償却 固定資産と減価償却について解説する。					事前：テキスト112-121頁 事後：復習ノートの作成		小テスト 20分 講義 70分	
12	減損会計 固定資産の減損について解説する。					事前：テキスト122-129頁 事後：復習ノートの作成		小テスト 20分 講義 70分	
13	無形固定資産 研究開発費とソフトウェア、のれんについて解説する。					事前：テキスト130-135頁 事後：復習ノートの作成		小テスト 20分 講義 70分	
14	リース会計 リース取引について解説する。					事前：テキスト136-143頁 事後：復習ノートの作成		小テスト 20分 講義 70分	
15	問題演習 前期授業内容の理解度をみる。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		問題演習 90分	
教本： 登川雄太『財務会計の基本』、日本実業出版社。					参考文献： 桜井久勝・須田一幸『財務会計・入門』（最新版）、有斐閣アルマ。				
成績評価の方法、評価基準： 試験（60％）および小テスト（40％）で評価する。									
学生へのアドバイス： 電卓を用意すること（スマホなどの電卓は認めない）。日々の予習復習を怠らないこと。授業妨害になることをしないこと。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	会計学Ⅱ（Accounting Ⅱ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	上野 清貴								
履 修 条 件	前提科目	会計学Ⅰ 簿記論Ⅰ・Ⅱ							
	そ の 他	なし							
授業概要： 会計学Ⅱでは、主として会計学の各論を解説する。具体的には、有形固定資産の会計、無形固定資産と投資その他の資産の会計、繰延資産の会計、負債の会計、純資産の会計、収益と費用の会計を解説する。最後に、財務諸表の作成を解説する。									
授業目標： 会計学Ⅱおよび前の会計学Ⅰは、最新の会計基準や会計法を取り扱いつつ、会計の意義から考察を始めて、貸借対照表および損益計算書における各項目の会計処理を全般的に理解し、会計手続の最終段階である財務諸表を正式に作成できるようにすることを目標としている。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	有形固定資産の会計（1） 有形固定資産の意義と範囲を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 70分 設例の計算 20分	
2	有形固定資産の会計（2） 有形固定資産の減価償却を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 70分 設例の計算 20分	
3	無形固定資産と投資その他の資産の会計（1） 無形固定資産の意義と範囲を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 70分 設例の計算 20分	
4	無形固定資産と投資その他の資産の会計（2） 投資その他の資産の意義と範囲を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 70分 設例の計算 20分	
5	繰延資産の会計（1） 繰延資産の意義と範囲を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 70分 設例の計算 20分	
6	繰延資産の会計（2） 繰延資産の会計処理を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 70分 設例の計算 20分	
7	負債の会計（1） 負債の意義と分類を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 70分 設例の計算 20分	
8	負債の会計（2） 引当金と社債の会計処理を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 70分 設例の計算 20分	
9	純資産の会計（1） 純資産の意義と分類を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 70分 設例の計算 20分	
10	純資産の会計（2） 純資産の会計処理を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 70分 設例の計算 20分	
11	収益と費用の会計（1） 収益と費用の意義と分類を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 70分 設例の計算 20分	
12	収益と費用の会計（2） 収益認識基準の適用を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 70分 設例の計算 20分	
13	財務諸表の作成（1） 貸借対照表と損益計算書を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 90分	
14	財務諸表の作成（2） 株主資本等変動計算書を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 90分	
15	財務諸表の作成（3） キャッシュ・フロー計算書を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 90分	
教本： 上野清貴著『財務会計の基礎（第5版）』中央経済社					参考文献：				
成績評価の方法、評価基準： 毎回提出のレポートで評価する。									
学生へのアドバイス： 日々の予習復習を怠らないこと。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	会計学Ⅱ（AccountingⅡ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	高橋 琢也								
履 修 条 件	前提科目	会計学Ⅰ							
	そ の 他	なし							
授業概要： 会計学Ⅰ・Ⅱでは、財務会計について取り扱う。財務会計は、企業が、外部の利害関係者に対して財務諸表等の財務情報を報告する会計領域である。企業の作成する財務諸表に対する理解を深めるようにする。なお、各回の最初に理解度の確認として、前回の内容の小テストを実施する。									
授業目標： 会計の意義や役割、個別論点における処理と知識について理解することを目標にする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	有価証券 有価証券の取得や期末評価について解説する。					事前：テキスト146-159頁 事後：復習ノートの作成		講義 90分	
2	ヘッジ会計・デリバティブ取引 ヘッジ会計・デリバティブ取引について解説する。					事前：テキスト160-168頁 事後：復習ノートの作成		小テスト 20分 講義 70分	
3	債権の種類と評価 債権の種類と評価について解説する。					事前：テキスト169-173頁 事後：復習ノートの作成		小テスト 20分 講義 70分	
4	引当金 引当金の処理について解説する。					事前：テキスト176-184頁 事後：復習ノートの作成		小テスト 20分 講義 70分	
5	退職給付会計 退職給付会計について解説する。					事前：テキスト185-194頁 事後：復習ノートの作成		小テスト 20分 講義 70分	
6	税効果会計の概要 税効果会計の概要（一時差異と永久差異）について解説する。					事前：テキスト196-204頁 事後：復習ノートの作成		小テスト 20分 講義 70分	
7	繰延税金資産と資産負債法 繰延税金資産と資産負債法について解説する。					事前：テキスト205-212頁 事後：復習ノートの作成		小テスト 20分 講義 70分	
8	純資産 純資産（株主資本とその他）について解説する。					事前：テキスト214-226頁 事後：復習ノートの作成		小テスト 20分 講義 70分	
9	企業結合会計 企業結合とその処理について解説する。					事前：テキスト228-233頁 事後：復習ノートの作成		小テスト 20分 講義 70分	
10	連結会計 連結会計とその処理について解説する。					事前：テキスト234-248頁 事後：復習ノートの作成		小テスト 20分 講義 70分	
11	連結財務諸表特有の処理・持分法会計 連結財務諸表特有の処理・持分法会計について解説する。					事前：テキスト249-255頁 事後：復習ノートの作成		小テスト 20分 講義 70分	
12	外貨建取引 外貨建取引や為替予約について解説する。					事前：テキスト258-270頁 事後：復習ノートの作成		小テスト 20分 講義 70分	
13	財務諸表と連結財務諸表 財務諸表と連結財務諸表のそれぞれの関係について解説する。					事前：テキスト272-287頁 事後：復習ノートの作成		小テスト 20分 講義 70分	
14	キャッシュ・フロー計算書 キャッシュ・フロー計算書と活動区分について解説する。					事前：テキスト288-292頁 事後：復習ノートの作成		小テスト 20分 講義 70分	
15	問題演習 後期授業内容の理解度をみる。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		問題演習 90分	
教本： 登川雄太『財務会計の基本』、日本実業出版社。					参考文献： 桜井久勝・須田一幸『財務会計・入門』（最新版）、有斐閣アルマ。				
成績評価の方法、評価基準： 試験（60％）および小テスト（40％）で評価する。									
学生へのアドバイス： 電卓を用意すること（スマホなどの電卓は認めない）。日々の予習復習を怠らないこと。授業妨害になることをしないこと。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	外国史 (History of the World)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	伊藤 幹彦								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要：基礎的な外国史。授業の内容：1. アクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学びの学習法）型授業を通じて生きる力（自ら考えて問題を解決する力、他者を思いやる心＜感情の知性＞、知・徳・体）を育む。インターアクションで自己肯定感を高める。2. 多角的で情熱的でアンケートで改善する学習者中心主義の授業。3. 知識＋討論＋思考＝独創性開発。4. 成功哲学(信念をもち、努力すれば、必ず勉強はできるようになる)。5. わかりやすい。6. ICT(情報通信技術)でやる気にさせる。7. Albert Banduraの社会的学習理論の自己効力感(self-efficacy)の達成経験、言語的説得、代理体験、心理的情緒高揚で成績を高める。8. 夢（Dreams come true. 夢が叶う）と目標を達成させる。									
授業目標：基礎レベルの外国史。本授業のテーマは外国史（世界史）で基礎レベルの古代史、中世史、近世史、近代史、現代史のグローバル・ヒストリーである。グローバル・ヒストリーは、オリエント世界、地中海世界、南アジア世界、アメリカ世界、内陸アジア世界、東アジア世界、イスラーム世界、東南アジア世界、ヨーロッパ世界、アフリカ世界の異文化間の交流ネットワークである。到達目標は外国史をグローバル・ヒストリーとしてとらえ、日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や外国文化尊重の大切さについての自覚を深めるようになることである。 1. 外国史の歴史的な考え方ができるようにさせ、2. 外国史の課題を追究させ、解決させ、3. 平和で民主的な公民を育成させる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態		
1	(基礎)外国史の目次の説明(古代史、中世史、近世史、近代史、現代史)をする。自己紹介をする。アンケートをする。			事前：教科書の目次の下読みをする。 事後：教科書の目次をノートに書く。			講義説明 40分。口頭 Q&A10分。 アンケート 10分。自己紹介 30分。		
2	文明の成立と古代文明の特質について説明する。口頭 Q&A をする。アンケートをする。課題をする。			事前：文明の成立と古代文明の特質の下読みをする。 事後：文明の成立と古代文明の特質のポイントを書く。			講義説明 10分。口頭 Q&A60分。 アンケート 10分。課題 10分。		
3	中央ユーラシアと東アジア世界について説明する。口頭 Q&A をする。アンケートをする。課題をする。			事前：中央ユーラシアと東アジア世界の下読みをする。 事後：中央ユーラシアと東アジア世界のポイントを書く。			講義説明 10分。口頭 Q&A60分。 アンケート 10分。課題 10分。		
4	南アジア世界と東南アジア世界の展開について説明する。口頭 Q&A をする。アンケートをする。課題をする。			事前：南アジア世界と東南アジア世界の展開の下読みをする。 事後：南アジア世界と東南アジア世界の展開のポイントを書く。			講義説明 10分。口頭 Q&A60分。 アンケート 10分。課題 10分。		
5	西アジアと地中海周辺の世界形成について説明する。口頭 Q&A をする。アンケートをする。第1回小テストを行う。			事前：西アジアと地中海周辺の世界形成の下読みをする。 事後：西アジアと地中海周辺の世界形成のポイントを書く。			講義説明 20分。小テスト 60分。 アンケート 10分。		
6	イスラーム教とヨーロッパ世界と西アジアの動向について説明する。口頭 Q&A をする。課題をする。			事前：イスラーム教とヨーロッパ世界と西アジアの動向の下読みをする。 事後：イスラーム教とヨーロッパ世界と西アジアの動向のポイントを書く。			講義説明 40分。口頭 Q&A10分。 課題 40分。		
7	ヨーロッパ世界の変容と展開について説明する。口頭 Q&A をする。課題をする。			事前：ヨーロッパ世界の変容と展開の下読みをする。 事後：ヨーロッパ世界の変容と展開のポイントを書く。			講義説明 40分。口頭 Q&A10分。 課題 40分。		
8	東アジア世界の展開とモンゴル帝国と大交易・大交流の時代について説明する。口頭 Q&A をする。課題をする。			事前：東アジア世界の展開とモンゴル帝国と大交易・大交流の時代の下読みをする。 事後：東アジア世界の展開とモンゴル帝国と大交易・大交流の時代のポイントを書く。			講義説明 40分。口頭 Q&A10分。 課題 40分。		
9	アジアの諸帝国の繁栄について説明する。口頭 Q&A をする。課題をする。			事前：アジアの諸帝国の繁栄の下読みをする。 事後：アジアの諸帝国の繁栄のポイントを書く。			講義説明 40分。口頭 Q&A10分。 課題 40分。		
10	近世ヨーロッパ世界の動向について説明する。第2回小テストを行う。			事前：近世ヨーロッパ世界の動向の下読みをする。 事後：近世ヨーロッパ世界の動向のポイントを書く。			講義説明 30分。 小テスト 60分。		
11	産業革命と環大西洋革命について説明する。口頭 Q&A をする。課題をする。			事前：産業革命と環大西洋革命の下読みをする。 事後：産業革命と環大西洋革命のポイントを書く。			講義説明 40分。口頭 Q&A10分。 課題 40分。		
12	イギリスの優位と欧米国民国家について説明する。口頭 Q&A をする。ディスカッションをする。			事前：イギリスの優位と欧米国民国家の下読みをする。 事後：イギリスの優位と欧米国民国家のポイントを書く。			講義説明 40分。口頭 Q&A10分。 ディスカッション 40分。		
13	アジア諸地域の動揺と帝国主義とアジアの民族運動について説明する。口頭 Q&A をする。課題をする。			事前：アジア諸地域の動揺と帝国主義とアジアの民族運動の下読みをする。 事後：アジア諸地域の動揺と帝国主義とアジアの民族運動のポイントを書く。			講義説明 40分。口頭 Q&A10分。 課題 40分。		
14	第一次世界大戦と第二次世界大戦について説明する。口頭 Q&A をする。課題をする。			事前：第一次世界大戦と第二次世界大戦の下読みをする。 事後：第一次世界大戦と第二次世界大戦のポイントを書く。			講義説明 40分。口頭 Q&A10分。 課題 40分。		
15	冷戦と今日の世界について説明する。(基礎)外国史のまとめをする。アンケートをする。			事前：冷戦と今日の世界の下読みをする。 事後：冷戦と今日の世界のポイントをノートに書く。			講義説明 60分。口頭 Q&A20分。 アンケート 10分。		
教本：木村靖二、岸本美緒、小松久男、橋場弦(著)、『世界史探究 詳説世界史』、山川出版社、2023年3月出版、ISBN 978-4-634-70131-1、¥860。 参考文献：川北稔、桃木至朗(監)、帝国書院編集部(編)、『最新世界史図説タベストリー十七訂版』、帝国書院、2019年、957円。 世界史小辞典編集委員会(編)、『山川世界史小辞典(改訂新版)』、山川出版社、2011年、¥3,080。									
成績評価の方法、評価基準：第15回目の授業時しめきりの期末小論文（40％）、授業への寄与度や授業態度や小テストや課題などの平常点（60％）。									
学生へのアドバイス：私伊藤幹彦が、自己効力理論で授業を行い、学生は主体的に学習し、実力がつく。 1. 外国史の知識（頭脳の知性）向上、2. 自己効力感（私はできるというプラス思考）向上、3. 人間力（力強く生きていく力、目標達成力）向上。学生の皆さんにA4の紙を配り、アンケートとして、質問、意見、感想を書いてもらう。									
オフィスアワー：初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	カウセリング入門（Introduction Counseling）						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	田 村 修 一								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 私たちは人生の中で様々な問題に直面し、選択を迫られることがある。カウンセリングは、このような誰もが遭遇する進路の選択や心の健康にかかわる問題にアプローチし、援助する活動のことである。本授業では、カウンセリングの歴史、基本的理論・技法、独自性などについて演習を交えながら学ぶ。この授業が、履修者の日常生活における well-being 向上につながるような学びとしたい。									
授業目標： 1．カウンセリングの意義、目的、方法、独自性を理解できる。 2．カウンセリングの基本的な理論や技法の基礎を習得し、日常生活における自身の問題解決や他者の援助に生かすことができる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 （ 詳 細 に 記 入 ）					事 前 ・ 事 後 学 習 （ 学 習 課 題 ）		授 業 形 態	
1	オリエンテーション（授業の進め方、成績評価の説明） カウセリング心理学の独自性					事前：シラバスに目を通す 事後：学びの振り返りの記入		講義 90分	
2	カウセリング心理学の発達史					事前：なし 事後：学びの振り返りの記入		講義 90分	
3	カウセリング・プロセスとカウンセラーに必要な基本的態度					事前：なし 事後：学びの振り返りの記入		講義 90分	
4	カウセリング理論① 精神分析理論					事前：なし 事後：学びの振り返りの記入		講義 90分	
5	カウセリング理論② 認知行動理論					事前：なし 事後：学びの振り返りの記入		講義 90分	
6	カウセリング理論③ 自己理論（人間性心理学）					事前：なし 事後：学びの振り返りの記入		講義 90分	
7	カウセリングの技法① グループ・アプローチ（SGE）					事前：なし 事後：学びの振り返りの記入		講義 30分・演習 60分	
8	カウセリングの技法② グループ・アプローチ（GWT）					事前：なし 事後：学びの振り返りの記入		講義 15分・演習 75分	
9	カウセリングの技法③ マイクロ・カウセリング					事前：なし 事後：学びの振り返りの記入		講義 60分・演習 30分	
10	カウセリングの技法④ 傾聴トレーニング					事前：なし 事後：学びの振り返りの記入		講義 30分・演習 60分	
11	カウセリングの時期別（初・中・後期）面接技法の違い					事前：なし 事後：学びの振り返りの記入		講義 90分	
12	心理アセスメント① 交流分析とエゴグラム					事前：なし 事後：学びの振り返りの記入		講義 60分・演習 30分	
13	心理アセスメント② 知能検査（WISC）の理解と活用					事前：なし 事後：学びの振り返りの記入		講義 90分	
14	心理アセスメント③ 心理検査（描画法：バウムテスト）					事前：なし 事後：学びの振り返りの記入		講義 60分・演習 30分	
15	現代人の課題：うつ病の理解と援助（認知行動療法）					事前：なし 事後：学びの振り返りの記入		講義 90分	
教本： 「はじめてのカウセリング入門(下)ほんものの傾聴を学ぶ」諸富祥彦 誠信書房 2010年					参考文献： 「はじめてのカウセリング入門(上)カウセリングとは何か」諸富祥彦 誠信書房 2010年 「カウセリングの技法」諸富祥彦 誠信書房 2014年				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 平常点(授業への参加態度、リアクションペーパー、振り返りレポート)50%と定期試験（50%）の総合評価。									
学生へのアドバイス： 本科目の授業を学ぶことで、日常の問題解決能力の向上や自己理解、他者理解が深まることを期待しています。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義										
授業科目(英文)	家族心理学（Psychology of Family）						科目分類	専門科目											
担 当 教 員	水本 深喜																		
履 修 条 件	前提科目	なし																	
	そ の 他	なし																	
授業概要： 個人の「こころ」は、その家族の歴史、現在の家族関係と切り離して考えることはできない。本講義では、個人を家族との関係から捉え、家族が形成されてから発達して行く過程、その過程で生じうる家族メンバーの相互作用や心理臨床的問題、支援法を学ぶ。																			
授業目標： 本講義の目標は、個人を家族との関係から理解し、支援するための基礎的な知識を得ることである。これにより、心理臨床の場における支援対象者の理解・支援の手がかりを得ることができる。さらに、身近な存在であるがゆえに客観視することが難しい家族との関係について心理学の理論に基づいて考えていくことは、他者理解のみでなく自己理解を深めることにも繋がると期待される。																			
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）																			
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養												
◎			○																
授業計画、事前学習・事後学習、形式																			
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態											
1	オリエンテーション、ジェノグラム					事前：シラバスの確認 事後：講義内容の復習		講義 40分、 グループワーク 50分											
2	家族システム理論					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容を自分や周囲の家族と結びつけて考える		講義 50分、 グループワーク 40分											
3	家族をシステムから捉え、家族の問題を考える					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容を自分や周囲の家族と結びつけて考える		講義 50分、 グループワーク 40分											
4	独身の若い成人期、結婚による家族の成立期					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容を自分や周囲の家族と結びつけて考える		講義 50分、 グループワーク 40分											
5	家族をシステムから捉え、家族の問題を考える					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容を自分や周囲の家族と結びつけて考える		講義 50分、 グループワーク 40分											
6	小学生の子ども、若者世代とその家族					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容を自分や周囲の家族と結びつけて考える		講義 50分、 グループワーク 40分											
7	自立とは？ 親からの精神的自立					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容を自分や周囲の家族と結びつけて考える		講義 50分、 グループワーク 40分											
8	老年期の家族					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容を自分や周囲の家族と結びつけて考える		講義 50分、 グループワーク 40分											
9	家族への臨床的アプローチ					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容を自分や周囲の家族と結びつけて考える		講義 50分、 グループワーク 40分											
10	リフレーミング					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容を自分や周囲の家族と結びつけて考える		講義 50分、 グループワーク 40分											
11	夫婦関係の危機と援助					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容を自分や周囲の家族と結びつけて考える		講義 50分、 グループワーク 40分											
12	児童虐待					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容を自分や周囲の家族と結びつけて考える		講義 50分、 グループワーク 40分											
13	家族が経験するストレスと援助					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容を自分や周囲の家族と結びつけて考える		講義 50分、 グループワーク 40分											
14	現代の家族の問題（発表会）					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容を自分や周囲の家族と結びつけて考える		講義 50分、 グループワーク 40分											
15	事例検討：不登校の事例					事前：授業全般の復習 事後：理解の補完		講義 30分、 グループワーク 60分											
教本： 平木典子『家族の心理—家族への理解を深めるために』 第2版 サイエンス社										参考文献： 中釜洋子・野末武義・布柴靖枝・無藤清子『家族心理学：家族システムの発達と臨床的援助』有斐閣ブックス									
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（50％）、テスト（50％）で総合評価する。																			
学生へのアドバイス： 授業には、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等を取り入れる。毎回の授業終了時には、コメントペーパーに授業内容から考えたことを書いて提出していただく。																			
オフィスアワー： 初回授業日に伝える。																			

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	家 族 法 (Family Law)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	上 地 一 郎								
履 修 条 件	前 提 科 目	私 法 学Ⅰ／私 法 学Ⅱ／物 権 法							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要： 本講義では、民法第四編親族を中心に講義を行ないます。親族法の基礎理論、婚姻、離婚、親子、養子、扶養等を中心に親族法が主要なテーマとなります。これらを学習することを通して、法学的な客観的視点で事象を分析し、問題を発見する能力、論理的思考力を養うことを目的としています。									
授 業 目 標： 親族法の基本的な知識を習得し、ならびに親族法の主要な法律問題を説明できるようになること。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得				思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養		
				◎			○		
授 業 計 画、事 前 学 習・事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画（詳細に記入）				事 前・事 後 学 習（学 習 課 題）			授 業 形 態	
1	オリエンテーション 講義の進め方、評価などにつき説明する				事前：なし 事後：配布資料の見直し			講義 60分 質疑応答 30分	
2	家族法総論 家族法とは何かを解説する				事前：日本の家族法の特徴について調べる。 事後：日本の家族法の特徴、紛争解決手続をまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
3	婚姻 (1) 総説/婚姻の効果 (1) 婚姻の法的効果として人格的效果を解説する				事前：婚姻の効果について調べる。 事後：婚姻の効果についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
4	婚姻 (2) 婚姻の効果 (2) 婚姻の法的効果として財産上の効果を解説する				事前：婚姻による財産上の効果について調べる。 事後：婚姻による財産上の効果についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
5	婚姻 (3) 婚姻の成立 (1) 実質的要件—意思の合致/婚姻意思の内/意思の存在期間/婚姻届作成後の翻意を解説する				事前：婚姻成立の実質的要件について調べる。 事後：婚姻届作成後の翻意についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
6	婚姻 (4) 婚姻の成立 (2) 実質的要件—婚姻適齢／重婚禁止／再婚期間禁止期間について解説する				事前：再婚禁止期間について調べる。 事後：婚姻成立の実質的要件の諸問題をまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
7	離婚 (1) 総説/現代離婚法の法的な争点を解説する				事前：離婚の解消原因について調べる。 事後：日本の離婚の要件についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
8	離婚 (2) 離婚の方法 (1) 協議離婚とは何かを解説する				事前：協議離婚について調べる。 事後：協議離婚についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
9	離婚 (3) 離婚の方法 (2) 裁判離婚とは何かを解説する				事前：裁判離婚について調べる。 事後：日本の裁判離婚の特徴についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
10	親子 (1) 嫡出子、非嫡出子について解説する				事前：嫡出子／非嫡出子について調べる。 事後：嫡出子／非嫡出子の問題についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
11	親子 (2) 親子の法的効果を解説し、その問題を考える				事前：親権とは何かを調べる。 事後：親権の内容／要件／終了についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
12	養子 (1) 養子制度の概要を解説し、養子の成立、縁組の無効・取消などを解説する				事前：養子制度の概要について調べる。 事後：養子の成立／縁組の無効・取消しについてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
13	養子 (2) 縁組の法的効果、離縁とは何か、特別養子について解説する				事前：縁組の効果について調べる。 事後：特別養子縁組についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
14	扶養の法的諸問題を取り上げ、解説する				事前：扶養法の問題点について調べる。 事後：扶養の諸問題についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
15	氏と戸籍の関係について解説し、夫婦の氏の問題を考える				事前：氏と戸籍の関係について調べる。 事後：夫婦の氏の問題についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
教 本： とくになし（資料を配布します）。					参 考 文 献： 授業中に適宜指示します。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準：到達目標が達成できたかを評価する。 小テスト・レポート等（30%）、定期試験（70%）等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス： 法学は複雑な現代社会をひもとき、理解するための一つの道具でもあります。日常的に社会の問題に目を配り、何が問題なのかを考えるために、法学を自分の分析の道具としてもらいたいと思います。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	神奈川文化論（Cultural Analysis of KANAGAWA）						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	飯島祥二・川口 修・小林 克								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	1 回目から出席をすること。							
授業概要： 神奈川県とその周辺地域の歴史・文化等を多様な視点から紐解き、地域の文化・歴史のもつ複合性を学修する。本講義は3名の教員が担当しオムニバス形式で講義を進める。授業内容および計画の欄に（ ）担当教員を記載した。									
授業目標： 神奈川県とその近隣地域の歴史・文化等について多角的に学修することにより、神奈川県における今後のより良き文化の形成に資する基礎を学修する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション（講義の進め方と「複合領域としての地域学（Regionology）」の意味・特性の説明（飯島）					事前：シラバスの確認 事後：テーマの探求		講義 90分	
2	神奈川の社会と地形（川口）					事前：テーマ関連資料の収集 事後：テーマの探求		講義 75分 小テスト 15分	
3	神奈川の水資源と産業（川口）					事前：テーマ関連資料の収集 事後：テーマの探求		講義 75分 小テスト 15分	
4	神奈川の名所旧跡・温泉・名産品（川口）					事前：テーマ関連資料の収集 事後：テーマの探求		講義 75分 小テスト 15分	
5	神奈川の経済と工業製品（川口）					事前：テーマ関連資料の収集 事後：テーマの探求		講義 75分 小テスト 15分	
6	神奈川の歴史と文化①旧石器時代～古墳時代（小林）					事前：テーマ関連資料の収集 事後：テーマの探求		講義 75分 小テスト 15分	
7	神奈川の歴史と文化②古代～中世（小林）					事前：テーマ関連資料の収集 事後：テーマの探求		講義 75分 小テスト 15分	
8	神奈川の歴史と文化③近世～近・現代（小林）					事前：テーマ関連資料の収集 事後：テーマの探求		講義 75分 小テスト 15分	
9	神奈川の信仰と民俗（小林）					事前：テーマ関連資料の収集 事後：テーマの探求		講義 75分 小テスト 15分	
10	神奈川の「文化と環境、文化とツーリズム」（飯島）					事前：テーマ関連資料の収集 事後：テーマの探求		講義 75分 小テスト 15分	
11	神奈川の「沖積台地と洪積平野」（地形・生活環境）（飯島）					事前：テーマ関連資料の収集 事後：テーマの探求		講義 75分 小テスト 15分	
12	神奈川の「八景：金澤八景」（風景の見方の系譜）（飯島）					事前：テーマ関連資料の収集 事後：テーマの探求		講義 75分 小テスト 15分	
13	神奈川の「文化資源への眼差し」（藤沢遊行寺と大山）（飯島）					事前：テーマ関連資料の収集 事後：テーマの探求		講義 75分 小テスト 15分	
14	神奈川の「観光文化資源の在り方」（箱根：観光資源のポートフォリオ性）（飯島）					事前：テーマ関連資料の収集 事後：テーマの探求		講義 75分 小テスト 15分	
15	神奈川の「外国人のみた街道・旅の文化」（飯島）					事前：テーマ関連資料の収集 事後：テーマの探求		講義 75分 小テスト 15分	
教本： 授業ごとにプリントを配布する。					参考文献： 適時指示する。				
成績評価の方法、評価基準： 平常点（20%）、小テスト等（80%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 3名の担当教員で行うオムニバス授業のため講義形式、実施順等の変更があることもある。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。各講義担当教員より伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必修(保育)	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	体で遊ぶ（身体表現）（Physical Expression）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	水原佐和子								
履 修 条 件	前提科目	特になし							
	そ の 他	運動をするにあたり、教員に知らせておきたい持病や怪我等がある場合は、事前に申告してください							
授業概要： 領域「表現」のねらい、及び身体表現の指導に関わる幼児の表現や発達段階、身体能力について理解するとともに、幼児の多様な身体表現・遊び・環境構成の在り方など、保育者を志す学生に求められる専門的知識や表現力を身に付ける。									
授業目標： 保育者を目指す学生の身体表現力を高めるとともに、現場で活かせる身体表現活動に関する、基礎知識や技能の理解・習得を目指す。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス（・授業の目的を確認し、授業全体の見通しを共有する ・ノートの作り方を確認する ・簡単な準備運動を行う）					事前：シラバスを読んでおく 事後：目標を記録する		講義 70分 実技 20分	
2	領域「表現」について（・ねらいと内容の精読 ・身近な身体表現を自分自身、子どもの視点からディスカッションする）					事前：領域「表現」を読む 事後：振り返りを記録する		講義 40分 グループワーク 50分	
3	身体表現実技（・様々な歩き方～走り方、飛び方 ・思わず体が動かされてしまう刺激とは何か考え、感じ、実践する）					事前：子どもの歩き方を見る 事後：振り返りを記録する		講義 20分 実技 70分	
4	遊びと身体表現（・手遊びや身体遊びを行い、体を小さく使う遊び、大きく使う遊びを発表する）					事前：遊び方の確認（1種類） 事後：振り返りを記録する		講義 20分 実技 70分	
5	遊びと身体表現（・様々なじゃんけん遊びを行う ・発達段階に即したじゃんけん遊びについて考え合い、発表する）					事前：遊び方の確認（1種類） 事後：振り返りを記録する		講義 20分 実技 70分	
6	遊びと身体表現（・童謡やわらべうたに合わせた様々な身体表現遊びを行う）					事前：遊び方の確認（1種類） 事後：振り返りを記録する		講義 20分 実技 70分	
7	変身を楽しむ表現（・子どもの想像の世界について絵本を通じディスカッションする ・動物ごっこや忍者ごっこ等、子どもならではの想像力豊かな遊びを行う） ※絵本持参					事前：関連する絵本を読む 事後：気づきを記録する		講義 10分 グループワーク 40分 実技 40分	
8	縄・布の遊びと表現（・縄や布の様々な動きを通じ、物の特性に応じた身体の動きの幅を味わう）					事前：遊び方の確認（1種類） 事後：振り返りを記録する		講義 20分 実技 70分	
9	保育者にふさわしい体づくり（・様々なリズムの動きを行い、リズムカルな刺激がもたらす身体感覚を味わう）					事前：視聴（からだダンダン） 事後：振り返りを記録する		講義 20分 実技 70分	
10	言葉遊びと身体表現（・絵本を手掛かりに動きを引き出すオノマトベとは何かディスカッションする ・発表する） ※絵本持参					事前：言葉遊びの絵本を読む 事後：気づきを記録する		グループワーク 50分 実技 40分	
11	身体表現の作品創作（・ディスカッションを通じ題材を決定する ・全体像の構想を練る）					事前：ノートを見返し復習 事後：必要な素材を準備する		講義 20分 グループワーク 70分	
12	身体表現の作品創作（・練習～発表をする ・他学生の作品に参加する ・感想や気づきを伝え合う）					事前：発表に向けた準備 事後：振り返りを記録する		実技 60分 講義 30分	
13	領域「表現」の内容を踏まえたパラバルーンの使い方を学ぶ					事前：特性について調べる 事後：扱い方の復習と記録		講義 40分 実技 50分	
14	領域「表現」の内容を踏まえた身近な素材との関わり（・「表現」に適した身近な素材の事例を出し合い、実技発表する）					事前：身近な素材を準備 事後：振り返りを記録する		講義 20分 グループワーク 70分	
15	保育者の役割と授業のまとめ：領域「表現」の視点から					事前：領域「表現」の再読 事後：記録の整理と振り返り		講義 60分 討論 30分	
教本： なし（適宜資料を配布）					参考文献： 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（いずれも最新版）				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（50%）、表現創作と発表（30%）、記録レポート（20%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 主体的かつ積極的に参加する意欲、他者と協同する姿勢やコミュニケーション力が求められる。運動着と体育館シューズ必須。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	環境経営論Ⅰ（Environment ManagementⅠ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	飯島 祥二								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 近年、地域的環境問題がクローズアップされ、各々の産業セクター・研究領域においてそれに対する対応が急務になっている。観光産業領域においても、その傾向が認められ、「持続可能観光(sustainable tourism)」というタームが確立しつつある。本講義は、「環境マネジメント」を基軸として「持続可能性が産業に与える影響」を論じ、「持続可能観光」の様相を説明する。当該講義のキーワードは、環境マネジメント、持続可能性、消費者行動、人間・環境系である。予習・復習に関しては講義において詳細に指示する。									
授業目標： (1) 環境マネジメントの概念と実例を理解する。 (2) 「持続可能観光」に関し環境マネジメントを通し理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：シラバスの確認 事後：ノートを整理して復習		講義 90 分	
2	環境概念の変遷 (1)「人間と環境の関係性について説明する」 （人間・環境系において）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
3	環境概念の変遷 (2)「具体的に種々な環境について説明する」 （自然・社会環境領域において）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
4	観光領域の中での環境マネジメントの位置づけ (1) （観光学の全体的枠組みについて）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
5	観光領域の中での環境マネジメントの位置づけ (2) （旅行システムに関する考察）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
6	持続可能性の定義と各領域での応用 (1) （自然科学領域）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
7	持続可能性の定義と各領域での応用 (2) （社会・経済学領域）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
8	観光学における持続可能性の定義 （sustainable tourism の定義を巡って）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
9	持続可能観光と環境・観光マネジメント (1) （Eco tourism, Responssible tourism など巡って）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
10	持続可能観光と環境・観光マネジメント (2) （観光行動「環境配慮行動等について」）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
11	持続可能観光と環境・観光マネジメント (3) （環境・観光マネジメント領域での課題）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
12	わが国の環境政策史と観光産業の形態 (1) （観光行動、観光マーケティングを通して）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
13	わが国の環境政策史と観光産業の形態 (2) （環境・観光マネジメントを中心に）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
14	マスツーリズムとサステナブルツーリズム （その対比と持続可能観光における意味）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
15	まとめ					事前：今までの講義の復習 事後：講義全体の復習		前回の確認 10 分、講義 80 分	
教本： 特に指定しない。毎回資料を配布する。					参考文献： 適時、指示する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（30％）、小テスト・レポート等（30％）、定期試験（40％）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 環境マネジメントに関する観光学からのアプローチです。基礎的な内容を具体的に丁寧に説明します。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義	
授業科目(英文)	環境経営論Ⅱ（Environment Management Ⅱ）						科目分類	専門科目		
担 当 教 員	飯島 祥二									
履 修 条 件	前提科目	なし								
	そ の 他	なし								
授業概要： 近年、地域的環境問題がクローズアップされ、各々の産業セクター・研究領域においてそれに対する対応が急務になっている。観光産業領域においても、その傾向が認められ、「持続可能観光(sustainable tourism)」というタームが確立しつつある。本講義は、「環境マネジメント」を基軸として「持続可能性が産業に与える影響」を論じ、「持続可能観光」の様相を説明する。当該講義のキーワードは、環境マネジメント、持続可能性、消費者行動、人間・環境系であり、講義は、「課題解決を目指すPBL的要素」を加えて実施する。また、予習・復習に関しては講義において詳細に指示する。										
授業目標： (1) 環境マネジメントの概念と実例を理解する。 (2) 観光領域からの持続可能性へのアプローチを理解し各領域への応用力を涵養する。 (3) 持続可能性の評価について「評価システム」を通して理解する。										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得				思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○				◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	オリエンテーション					事前：シラバスの確認 事後：ノートを整理して復習		講義90分		
2	環境・観光マネジメントと持続可能性 (1) （自然・工学領域）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分		
3	環境・観光マネジメントと持続可能性 (2) （社会経済領域）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義80分		
4	環境負荷とその課題 (1) （わが国の環境科学の現状と課題）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分		
5	環境負荷とその課題 (2) （国連会議、地球サミット等を通して）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分		
6	キャリング・キャパシティー（carrying capacity）について					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分		
7	持続可能観光という概念の誕生とその時系列的分析 （英国の事例を通して）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分		
8	持続可能観光における「持続可能性」に関する理論的根拠 （持続可能性という概念の理解を巡って）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義80分		
9	観光目的地の持続可能性についての概念的モデル (1) （観光目的地環境の発展・衰退等の時系列的分析）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分		
10	観光目的地の持続可能性についての概念的モデル (2) （持続可能な環境・観光マネジメントへの応用と限界）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分		
11	持続可能観光領域のステークホルダーの多様性とその役割 （観光学領域の側面から）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義80分		
12	持続可能観光領域のステークホルダーの多様性とその役割 （環境マネジメント領域の側面から）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分		
13	持続可能な観光マネジメントのための指標システムの事例 (1) （その具体的事例：DIT-Acheiv Model 等）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分		
14	持続可能な観光マネジメントのための指標システムの事例 (2) （多様な指標群のなかでの環境・マネジメントの役割と課題）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分		
15	纏め					事前：今までの講義の復習 事後：講義全体の復習		前回の確認10分、講義80分		
教本： 指定しない。										参考文献： 講義に際し適時、指示する。
成績評価の方法、評価基準： 平常点（30%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（40%）等で総合評価する。										
学生へのアドバイス： 環境マネジメントに関する観光学からのアプローチです。基礎的な内容を具体的に丁寧に説明します。実践的内容を含みますので、今後の学修に役立ててください。										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。										

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	環境（子どもと生活）(Environment (Children and Their Life))						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	野川 智子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 幼保小連携認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針、幼稚園教育要領における「環境」の内容とその取扱いを理解し、子どもを取り巻く自然環境や人的環境が子どもの成長に影響を与えることから保育環境の在り方を考察する。また、野菜の栽培を通して成長、収穫、食する過程で植物の生命力を体験的に学ぶ									
授業目標：1. 領域「環境」のねらいや内容について理解する 2. 幼児の発達段階に応じた保育環境と子どもへの影響を理解する 3. 栽培活動に取り組み、自然環境をいかした保育方法を考察する									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	科目の概要・目標を理解し、見通しを持つ 環境の意義についての講義から理解を深める					事前：なし 事後：資料をノートにまとめる		講義（90分）	
2	幼保小連携認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針、幼稚園教育要領を読んで、「環境」のねらいと内容を理解する					事前：要領、指針の下読み 事後：一覧表に整理する		講義（45分） 討議（45分）	
3	自然環境、人的環境と幼児の関わりが育む非認知能力について学問的知見から理解を深める					事前：3章の下読みをする 事後：ノートに3章を整理する		講義（45分） 討議（45分）	
4	子どもの心身の発達(情緒、社会性等)の特徴と環境との関わりを乳児期、1～3歳未満、3歳以上の段階を追って理解する					事前：4章の下読みをする 事後：ノートに4章を整理する		講義（45分） 討議（45分）	
5	子どもの生活における3つの「間」や遊びの連続性と環境、学びを深める保育環境の在り方を考察する					事前：5章の下読みをする 事後：ノートに5章を整理する		講義（45分） 討議（45分）	
6	花や野菜の栽培を通して、自然に親しみながら命の尊さを実感する保育環境の在り方を考察する					事前：栽培法を調べる 事後：ノートに6章を整理する		講義（30分） 討議（60分）	
7	子どもが生活の中で数量や文字への興味をもつような教材の工夫や保育環境の作り方を考え、制作する					事前：教材を考える 事後：ノートに7章を整理する		講義（30分） 制作（60分）	
8	年間行事や季節の行事、地域の文化を取り入れた行事を保育環境とすることの意義を理解する					事前：8章の下読みをする 事後：ノートに8章を整理する		講義（30分） 討議（60分）	
9	現代の子どもを取り巻く情報機器（スマホ、タブレット）の実態をとらえ、保育への活用上の留意点を明らかにする					事前：9章の下読みをする 事後：ノートに9章を整理する		講義（45分） 討議（45分）	
10	環境を通しての学びにおける指導計画のあり方とその評価(PDCA)の意義を理解し、指導計画の例を学ぶ					事前：10章の下読みをする 事後：ノートに10章を整理する		講義（45分） 討議（45分）	
11	0～2歳児の保育における道具、遊具、自然環境とはどんなものかを理解し、子どもに及ぼす影響を考察する					事前：道具、遊具の例を書き出す 事後：ノートに11章を整理する		講義（60分） 討議（30分）	
12	3～6歳児の保育における（言葉、体験）が子どもに及ぼす影響を考察し、発達を促す保育方法を理解する					事前：12章の下読みをする 事後：ノートに12章を整理する		講義（45分） 討議（45分）	
13	就学に向けて幼保小連携で進める接続期カリキュラムで幼稚園、小学校の双方の内容と必要性を理解する					事前：13章の下読みをする 事後：ノートに13章を整理する		講義（45分） 討議（45分）	
14	保育において特別な支援を必要とする子どもの理解と保育環境や活動参加への支援の方法を考察する					事前：ワークシートに予習する 事後：次回の課題を調べる		講義（45分） 討議（45分）	
15	現代社会における環境問題（人間関係、自然、科学等）を調べてこれからの保育の在り方をレポートにする					事前：集めた資料の下読みをする 事後：完成レポートを提出する		講義（20分） 実習（70分）	
教本：コンパクト版保育内容シリーズ③ 「環境」 参考文献：適宜紹介、資料配布する 幼保小連携認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針、幼稚園教育要領									
成績評価の方法、評価基準：到達目標の達成度、レポート、定期試験を総合的に評価する 授業参加状況等（40%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（30%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 環境を通して成長する幼児にとって、保育者の役割は大きいものがあるのでしっかり学んでいこう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演 習												
授業科目(英文)	観光英語 I (English for Tourism I)						科目分類	専門科目													
担 当 教 員	中村 文男																				
履 修 条 件	前提科目	なし																			
	そ の 他	なし																			
授業概要： 将来国内外の観光関係の仕事に携わることができることを目標とした授業です。そのため、特に国内外観光に関する様々な場面を想定し、仕事を遂行するのに必要なコミュニケーションに慣れ、運用できるようにします。運用するには、受け身の学習では英語の運用力は身につけません。学生の皆さん自ら英語を運用し、間違え、それらを修正しながら英語の運用力を高める授業です。																					
授業目標： ツアーでなく単独で海外旅行ができる英語の運用力を身に着けることです。																					
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）																					
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養														
			○				◎														
授業計画、事前学習・事後学習、形式																					
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態													
1	授業概要と評価の仕方及び英語の学び方について					事前：なし 事後：説明概要確認		演習説明50分アンケート20分質疑応答20分													
2	Unit 1 At the airport					事前：語彙確認 p 7 事後：復習 口頭練習		語彙20分口頭練習40分リスニング30分													
3	Unit 2 On the plane					事前：語彙確認 p 13 事後：復習 口頭練習		語彙20分口頭練習40分リスニング30分													
4	Unit 3 Arrival					事前：語彙確認 p 19 事後：復習 口頭練習		語彙20分口頭練習40分リスニング30分													
5	Unit 4 Checking in the hotel					事前：語彙確認 p 25 事後：復習 口頭練習		語彙20分口頭練習40分リスニング30分													
6	Unit 5 Getting information and sightseeing					事前：語彙確認 p 31 事後：復習 口頭練習		語彙20分口頭練習40分リスニング30分													
7	Unit 6 Ordering fast food					事前：語彙確認 p 37 事後：復習 口頭練習		語彙20分口頭練習40分リスニング30分													
8	確認テスト					事前：テスト準備 事後：テスト範囲の復習		テスト準備30分テスト60分													
9	Unit 7 Going to the theater					事前：語彙確認 p 43 事後：復習 口頭練習		語彙20分口頭練習40分リスニング30分													
10	Unit 8 At the restaurant					事前：語彙確認 p 49 事後：復習 口頭練習		語彙20分口頭練習40分リスニング30分													
11	Unit 9 Shopping					事前：語彙確認 p 55 事後：復習 口頭練習		語彙20分口頭練習40分リスニング30分													
12	Unit 10 Lost and found					事前：語彙確認 p 61 事後：復習 口頭練習		語彙20分口頭練習40分リスニング30分													
13	Unit 11 Using public transportation					事前：語彙確認 p 67 事後：復習 口頭練習		語彙20分口頭練習40分リスニング30分													
14	Unit 12 Renting bike					事前：語彙確認 p 73 事後：復習 口頭練習		語彙20分口頭練習40分リスニング30分													
15	確認テスト					事前：テスト準備 事後：テスト範囲の復習		テスト準備30分テスト60分													
教本： Enjoy Your Trip! 南雲堂 著者 竹内真澄 中井延美他										参考文献： 適宜紹介します。											
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（10%）、小テスト・レポート等（40%）、定期試験（50%）等で総合評価します。																					
学生へのアドバイス： 英語のスピーキングの修得は単に記憶だけに頼らず、運用し間違いを犯すことが修得に繋がります。言い換えれば、間違いを通してスピーキングに慣れることが修得するための最初の一步になります。																					
オフィスアワー： 初回講義に説明します。																					

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	観光英語Ⅱ（English for TourismⅡ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	中村 文男								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 将来、国内外のホテルや旅行代理店、航空関連などの観光関係の仕事に携わることを目標とした授業です。そのため、特に国内外観光に関する様々な場面を想定し、仕事を遂行するのに必要なコミュニケーションに慣れ、基本的な英語の運用ができるようにする授業です。									
授業目標： 観光業務を遂行するために必要とする基本的な英語の運用ができるようにすることが目標です。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
			○				◎		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	授業概要と評価の仕方及び英語の学び方について					事前：なし 事後：説明概要確認		演習説明50分アンケート20分質疑応答20分	
2	Unit 1 北海道（Hokkaido）					事前：語彙確認 p 5 事後：復習 口頭練習		語彙20分口頭練習40分リスニング30分	
3	Unit 2 京都（Kyoto）					事前：語彙確認 p 11 事後：復習 口頭練習		語彙20分口頭練習40分リスニング30分	
4	Unit 3 湯布院（Yufuin）					事前：語彙確認 p 17 事後：復習 口頭練習		語彙20分口頭練習40分リスニング30分	
5	Unit 4 沖縄（Okinawa）					事前：語彙確認 p 23 事後：復習 口頭練習		語彙20分口頭練習40分リスニング30分	
6	Unit 5 シンガポール（Singapore）					事前：語彙確認 p 29 事後：復習 口頭練習		語彙20分口頭練習40分リスニング30分	
7	Unit 6 バリ（Bali, Indonesia）					事前：語彙確認 p 35 事後：復習 口頭練習		語彙20分口頭練習40分リスニング30分	
8	確認テスト					事前：テスト準備 事後：テスト範囲の復習		テスト準備30分 テスト60分	
9	Unit 7 シドニー（Sydney, Australia）					事前：語彙確認 p 41 事後：復習 口頭練習		語彙20分口頭練習40分リスニング30分	
10	Unit 8 ハワイ（Hawaii, the USA）					事前：語彙確認 p 47 事後：復習 口頭練習		語彙20分口頭練習40分リスニング30分	
11	Unit 9 ロンドン（London, the UK）					事前：語彙確認 p 53 事後：復習 口頭練習		語彙20分口頭練習40分リスニング30分	
12	Unit 10 フランス（France）					事前：語彙確認 p 59 事後：復習 口頭練習		語彙20分口頭練習40分リスニング30分	
13	Unit 11 ヨーロッパの美術館（Museum in Europe）					事前：語彙確認 p 67 事後：復習 口頭65		語彙20分口頭練習40分リスニング30分	
14	Unit 12 ニューヨーク（New York, the USA）					事前：語彙確認 p 71 事後：復習 口頭練習		語彙20分口頭練習40分リスニング30分	
15	確認テスト					事前：テスト準備 事後：テスト範囲の復習		テスト準備30分 テスト60分	
教本： English for Tourism 101 南雲堂 著者 津田 晶子 クリストファー・ヴァルヴォナ 岩本弓子									
参考文献： 適宜紹介します。									
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（10%）、小テスト・レポート等（40%）、定期試験（50%）等で総合評価します。									
学生へのアドバイス： 英語のスピーキングの修得は単に記憶だけに頼らず、英語を実際に運用し間違いをすることが修得に繋がります。言い換えれば、間違いを通して英語のスピーキングに慣れることが修得することに繋がります。									
オフィスアワー： 初回講義に説明します。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	観光概論 (Introduction to Tourism)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	古賀 学								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 観光学の体系、観光の成立要因と各要因の関係性、観光を学ぶために必要な用語とその意味・定義、観光の波及効果など、観光学の体系と観光の基礎につき修得する。									
授業目標： ①観光を深く学ぶために必要な基礎知識を修得する。 ②観光に関わる語句を理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○							◎		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	
1	観光学の体系：観光学を構成する学問体系と松蔭大学が目指す観光教育のあり方について修得する。				事前：専門科目について理解する 事後：自己の観光における学習体系を考察する。			ガイダンス・講義 60分、 能力テスト 30分	
2	観光の定義と構造：観光及び観光産業の特性について理解し、観光の定義について理解する。				事前：言語としての観光について考究する。 事後：観光の構成要因について整理する。			復習 10分、講義 70分、 理解度チェック 10分	
3	観光行動の成立要因と実現：観光の各発生要因の詳細及び発生の歴史的経緯を理解することにより、観光の実現化要因について観光行動の特性を理解する。また、観光ルート・コースについても理解する。				事前：自身がなぜ観光するのかについて考究する。 事後：観光という現象がなぜ起こるのかを整理する。			復習 10分、講義 70分、 理解度チェック 10分	
4	観光客：観光の市場について、その分類と特徴、市場の変化について理解することにより、観光客の定義と特性について習得する。				事前：観光客とは何かについて考究する。 事後：観光とは何かについて整理する。			復習 10分、講義 70分、 理解度チェック 10分	
5	観光旅行形態：マス・ツーリズム、体験型観光旅行、リゾート、ニューツーリズムなど旅行の変遷と形態について、その特徴について修得する。				事前：観光とリゾートの違いについて考究する。 事後：今後のより良き観光旅行形態について考察する。			復習 10分、講義 70分、 理解度チェック 10分	
6	ユニバーサル・ツーリズム：すべての人のための旅行環境の構築について学修する。				事前：ユニバーサルデザインについて学修する。 事後：Tourism for All について探求する。			復習 10分、講義 70分、 理解度チェック 10分	
7・8	観光資源：観光資源の定義、種類及び地域資源、観光資源、観光対象、観光商品の差異・変化、観光資源の価値評価等について修得する。				事前：観光の目的となるモノ・コトについて考究する。 事後：地域資源の観光資源化について事例検証を行う。			復習 10分、講義 70分、 理解度チェック 10分	
9	温泉資源：温泉資源の特性及び利活用と観光資源としての活用について温泉法及び温泉観光地の事例から学習する。				事前：温泉法を理解する。 事後：温泉の地域資源としてのあり方を考察する。			復習 10分、講義 70分、 理解度チェック 10分	
10・11	観光地：観光の目的地である観光地の空間構造及び変容について理解し、観光地のあるべき姿について修得する。				事前：どのような観光地があるのかを考究する。 事後：観光地の種類について体験的整理を行う。			復習 10分、講義 70分、 理解度チェック 10分	
12	観光施設：観光客の目的対象、資源の補完、利便化等の役割を果たす観光資源の種類、特徴、集客力などの原単位、役割等について修得する。				事前：観光施設の事例について考究する。 事後：観光施設の役割について再考する。			復習 10分、講義 70分、 理解度チェック 10分	
13	宿泊施設：宿泊施設の ISO による定義・目的分類・部屋分類・料金分類及び日本における宿泊施設の許認可、サービスの内容等について修得する。				事前：経験から宿泊施設の問題点を考究する。 事後：今後の宿泊施設のあり方について再考する。			復習 10分、講義 70分、 理解度チェック 10分	
14	観光関連組織：行政、観光協会、民間観光関連事業者、地域住民など観光に関わる関連組織の特徴、事業内容、関連等について修得する。				事前：観光行政の政策内容について考究する。 事後：自身が目指すべき組織について考察する。			復習 10分、講義 70分、 理解度チェック 10分	
15	観光波及効果：観光現状における社会、地域、組織、住民等に与える影響について考察し、より良き観光振興の目指すべき方向について修得する。				事前：観光により発生する負の効果について考究する。 事後：観光のより良き効果の増大について整理する。			復習 10分、講義 70分、 理解度チェック 10分	
教本： テキストは授業ごとにプリントを配布する。					参考文献： 適宜指示する。				
成績評価の方法、評価基準： 定期試験及び平常点を加味する。									
学生へのアドバイス： 観光を構成する事柄について全般的に学ぶ授業です。すべての内容を理解し、自身の興味の方向を見出すつもりで受講してください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。基本的には在席中いつでも可。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	観光経営論（Tourism Management）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	夏目 千恵子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 観光産業の全体像を経営学の枠組みと理論に基づいて概観し、観光経営の基礎について学びます。									
授業目標： ・観光経営に関する理論について説明できること ・さまざまな観光関係の事業体の現状と課題について理解し、説明できること									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション 観光経営の基礎					事前：シラバスの確認 事後：講義内容の復習		講義	
2	観光政策・行政と観光まちづくり					事前：テキストの通読 事後：課題への対応		講義 40分 グループワーク 50分	
3	観光行動と観光市場					事前：テキストの通読 事後：課題への対応		講義 40分 グループワーク 50分	
4	旅行産業経営ー旅行業の近未来					事前：テキストの通読 事後：課題への対応		講義 40分 グループワーク 50分	
5	観光産業の人的資源管理と接客と顧客満足					事前：テキストの通読 事後：課題への対応		講義 40分 グループワーク 50分	
6	交通産業経営					事前：テキストの通読 事後：課題への対応		講義 40分 グループワーク 50分	
7	ICT 革命と観光産業					事前：テキストの通読 事後：課題への対応		講義 40分 グループワーク 50分	
8	宿泊産業経営とホテルアセットマネジメント					事前：テキストの通読 事後：課題への対応		講義 40分 グループワーク 50分	
9	外食産業経営と集客戦略					事前：テキストの通読 事後：課題への対応		講義 40分 グループワーク 50分	
10	博物館と美術館					事前：テキストの通読 事後：課題への対応		講義 40分 グループワーク 50分	
11	発表会①					事前：発表資料の通読 事後：理解の補完		発表 40分 グループワーク 50分	
12	発表会②					事前：発表資料の通読 事後：理解の補完		発表 40分、討論 30分 講義 20分	
13	発表会③					事前：発表資料の通読 事後：理解の補完		発表 40分、討論 30分 講義 20分	
14	発表会④					事前：発表資料の通読 事後：理解の補完		発表 40分、討論 30分 講義 20分	
15	まとめ					事前：授業全般の復習 事後：理解の補完		講義	
教本： 岡本伸之『観光経営学 よくわかる観光学1』朝倉書店					参考文献： なし				
成績評価の方法、評価基準： 定期試験（60%）、レポートおよび小テスト（20%）、平常点（20%）。到達目標が達成できたかを評価する。									
学生へのアドバイス： これからの観光経営について考えていきましょう。									
オフィスアワー： 月曜日の昼休み。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	観光産業論（Tourism Industry）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	飯島 祥二								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 本講義の目的は、観光産業に関する基礎的な知識を修得し観光産業の果たす役割と今後の観光産業のあり方についての理解を深め、観光産業の振興を図る創造的な能力と態度を育てることにある。まず、観光産業の「観光領域での位置づけ」と各々の観光産業の事例と特徴を説明する。そして、「観光産業が扱う旅行（観光）商品の特性」について具体的に説明をする。また、予習・復習に関しては講義において詳細に指示する。									
授業目標： (1) 観光産業の分類や特性を理解する。 (2) 観光産業の具体的な内容を理解する。 (3) 観光産業に関わる観光商品の特性を理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：シラバスの確認 事後：ノートを整理して復習		講義 90 分	
2	観光産業の特徴とその定義					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
3	観光学の中での観光産業の位置づけ（1） （需要 - 供給関係を主題に：Leiper(1990)）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
4	観光学の中での観光産業の位置づけ（2） （旅行システム論を通して：Mill &Morrison(1985)）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
5	市場（需要サイド）における観光産業 （具体的な事例）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
6	輸送（移動）における観光産業 （具体的な事例）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
7	観光目的地（供給サイド）における観光産業（1） （具体的な事例）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
8	観光目的地（供給サイド）における観光産業（2） （具体的な事例）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 50 分、 プレゼンテーション 30 分	
9	観光産業における旅行商品の一般的特徴 （無形性、不均質性等）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
10	観光産業に関わる旅行商品の特性（1） （Tourism product の属性の束的性格）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
11	観光産業に関わる旅行商品の特性（2） （Tourism product の 4 つの側面：アトラクション、設備、輸送、ホスピタリティー）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
12	旅行商品のライフサイクルモデルと観光産業 （ライフサイクル論の応用：Ryan(1991) の理解）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
13	旅行商品の計画・立案における観光産業の各領域の論点（1） （旅行商品の特性に関して）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
14	旅行商品の計画・立案における観光産業の各領域の論点（2） （需要側、供給側等の対比を通して）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 50 分、 プレゼンテーション 30 分	
15	纏め					事前：今までの講義の復習 事後：講義全体の復習		前回の確認 10 分、講義 80 分	
教本： 教科書は使用しない。必要に応じプリントを配布する。									
参考文献： 適時指示する。									
成績評価の方法、評価基準： 平常点（30％）、小テスト・レポート等（30％）、定期試験（40％）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 多様性を有する観光産業を体系的に記述することを心掛け、具体的内容を丁寧に説明する。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	4 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	観光社会学（Sociology of Tourism）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	古 賀 学								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 現代の社会における変動を様々な視点から見つめなおすことにより、これからの社会における観光の役割と方向を探究する。講義時点に起こっている観光と社会現象をテーマとして取り上げる。よって本授業計画は、今まで取り上げたテーマであり参考とする。									
授業目標： 1．社会における観光の位置づけと役割について理解する。 2．社会現象と観光との関係について理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	
1	観光社会学に関する認識と観光と社会との関係の基本について学修する。				事前：観光社会学Ⅰの復習 事後：余暇の現状について資料収集			ガイダンス・講義90分	
2	例【コロナ禍と観光の復権】 コロナ禍の社会における観光施策対応の現状について考察する。				事前：出題課題への対応 事後：さらなるニュースの内容の深堀り			復習10分、講義70分、 理解度テスト10分	
3・4	例【地方鉄道を考える】鉄道開業150周年に鑑み、地方鉄道の現状と今後について考察する。				事前：出題課題への対応 事後：さらなるニュースの内容の深堀り			復習10分、講義70分、 理解度テスト10分	
5	例【ミッションアプリ「ディグ」】 日常の中での発見を様々なミッションをクリアしながら体感するソフトと観光活用について考察する。				事前：出題課題への対応 事後：さらなるニュースの内容の深堀り			講義30分、 ディスカッション60分	
6	例【観光産業復調と雇用】 with corona における観光産業の復調と雇用の現状を考察する。				事前：出題課題への対応 事後：さらなるニュースの内容の深堀り			復習10分、講義70分、 理解度テスト10分	
7	例【宿泊施設の今後の在り方】 宿泊施設の多様化と新たな運営方法について考察する。				事前：出題課題への対応 事後：さらなるニュースの内容の深堀り			復習10分、講義70分、 理解度テスト10分	
8	例【酒と観光】 日本酒の醸造、蔵、販売方法など新たな展開について考察する。				事前：出題課題への対応 事後：さらなるニュースの内容の深堀り			復習10分、講義70分、 理解度テスト10分	
9・10	例【観光とSDGs】 SDGs における観光の役割について考察する。				事前：出題課題への対応 事後：さらなるニュースの内容の深堀り			講義30分、 ディスカッション60分	
11・12	例【観光DMO】 観光地運営の中核的役割を果たす観光DMOの現状と課題について考察する。				事前：出題課題への対応 事後：さらなるニュースの内容の深堀り			復習10分、講義70分、 理解度テスト10分	
13	例【キャンプの変容】 キャンプの宿泊施設機能、アウトドア活動としての位置づけ等について考察する。				事前：出題課題への対応 事後：さらなるニュースの内容の深堀り			復習10分、講義70分、 理解度テスト10分	
14	例【松江市の温泉旅館街の成立と現状における課題】 松江市の松江しんじ湖温泉の形成過程と現状の課題について考察する。				事前：出題課題への対応 事後：さらなるニュースの内容の深堀り			復習10分、講義70分、 理解度テスト10分	
15	例【観光地の変容】 コロナ禍における観光地整備の現状を把握し、今後の観光地の在り方について考察する。				事前：出題課題への対応 事後：ニュースに関心を持つ			復習10分、講義70分、 理解度テスト10分	
教本： 各講義毎のプリントを使用					参考文献： その都度適宜紹介				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加及び授業態度等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 今日起こっている観光に関する社会現象について常日頃からニュース等に関心を持つこと。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	観 光 社 会 学 I （Sociology of Tourism I）						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	古 賀 学								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授業概要： 現代の社会における変動を様々な視点から見つめなおすことにより、これからの社会における観光の役割と方向を探究する。講義時点に起こっている観光と社会現象をテーマとして取り上げる。よって本授業計画は、今まで取り上げたテーマであり参考とする。									
授業目標： 1. 社会における観光の位置づけと役割について理解する。 2. 社会現象と観光との関係について理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得				思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養		
◎				○					
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画（詳細に記入）				事 前 ・ 事 後 学 習（学習課題）			授 業 形 態	
1	観光社会学に関する認識と観光と社会との関係の基本について学修する。				事前：観光社会学 I の復習 事後：余暇の現状について資料収集			ガイダンス・講義 90 分	
2	例【コロナ禍と観光の復権】 コロナ禍の社会における観光施策対応の現状について考察する。				事前：出題課題への対応 事後：さらなるニュースの内容の深堀り			復習 10 分、講義 70 分、 理解度テスト 10 分	
3・4	例【地方鉄道を考える】 鉄道開業150周年に鑑み、地方鉄道の現状と今後について考察する。				事前：出題課題への対応 事後：さらなるニュースの内容の深堀り			復習 10 分、講義 70 分、 理解度テスト 10 分	
5	例【ミッションアプリ「ディグ」】 日常の中での発見を様々なミッションをクリアしながら体感するソフトと観光活用について考察する。				事前：出題課題への対応 事後：さらなるニュースの内容の深堀り			講義 30 分、 ディスカッション 60 分	
6	例【観光産業復調と雇用】 with corona における観光産業の復調と雇用の現状を考察する。				事前：出題課題への対応 事後：さらなるニュースの内容の深堀り			復習 10 分、講義 70 分、 理解度テスト 10 分	
7	例【宿泊施設の今後の在り方】 宿泊施設の多様化と新たな運営方法について考察する。				事前：出題課題への対応 事後：さらなるニュースの内容の深堀り			復習 10 分、講義 70 分、 理解度テスト 10 分	
8	例【酒と観光】 日本酒の醸造、蔵、販売方法など新たな展開について考察する。				事前：出題課題への対応 事後：さらなるニュースの内容の深堀り			復習 10 分、講義 70 分、 理解度テスト 10 分	
9・10	例【観光と SDGs】 SDGs における観光の役割について考察する。				事前：出題課題への対応 事後：さらなるニュースの内容の深堀り			講義 30 分、 ディスカッション 60 分	
11・12	例【観光 DMO】 観光地運営の中核的役割を果たす観光 DMO の現状と課題について考察する。				事前：出題課題への対応 事後：さらなるニュースの内容の深堀り			復習 10 分、講義 70 分、 理解度テスト 10 分	
13	例【キャンプの変容】 キャンプの宿泊施設機能、アウトドア活動としての位置づけ等について考察する。				事前：出題課題への対応 事後：さらなるニュースの内容の深堀り			復習 10 分、講義 70 分、 理解度テスト 10 分	
14	例【松江市の温泉旅館街の成立と現状における課題】 松江市の松江しんじ湖温泉の形成過程と現状の課題について考察する。				事前：出題課題への対応 事後：さらなるニュースの内容の深堀り			復習 10 分、講義 70 分、 理解度テスト 10 分	
15	例【観光地の変容】 コロナ禍における観光地整備の現状を把握し、今後の観光地の在り方について考察する。				事前：出題課題への対応 事後：ニュースに関心を持つ			復習 10 分、講義 70 分、 理解度テスト 10 分	
教 本： 各講義毎のプリントを使用					参 考 文 献： その都度適宜紹介				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加及び授業態度等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 今日起こっている観光に関する社会現象について常日頃からニュース等に関心を持つこと。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	観光社会学Ⅱ（Sociology of Tourism Ⅱ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	古 賀 学								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： これまでの観光の潮流及び観光社会の今を踏まえて、現代社会における観光の役割・責任を探究する。									
授業目標： 1．観光が社会にどのような影響を及ぼしているのかを理解する。 2．観光関連のニュース等情報から観光の現状と今後を考察する能力を培う。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	
1	観光社会学の体系：観光社会学における社会と観光との関係の体系について学修する。				事前：観光社会学Ⅰの復習 事後：社会における関連事象について深掘り			ガイダンス・講義90分	
2	観光の社会における波及効果：観光が社会に与える影響及び社会の変化における観光のあり方等について学修する。				事前：出題課題の対応 事後：ニュースなどでの現状の深掘り			復習10分、講義70分、 理解度テスト10分	
3・4	観光社会の今：観光庁「観光白書」を元に、観光施策の現状について理解する。				事前：観光白書の既読 事後：観光施策のあり方の深掘り			各講義：復習10分、講義70分、 理解度テスト10分	
5・6	余暇社会と観光：余暇社会の変遷と観光への影響について休暇制度等を踏まえ学修する。 ・仕事と余暇との関係 ・余暇活動の変遷 ・余暇活動における観光の位置づけ				事前：出題課題の対応 事後：ニュースなどでの現状の深掘り			各講義：復習10分、講義70分、 理解度テスト10分	
7・8	持続可能な観光と社会：持続可能な観光振興のあり方について学修する。 ・社会におけるSDGsの今日的な位置づけ ・SDGsの活動における観光の果たすべき役割				事前：出題課題の対応 事後：ニュースなどでの現状の深掘り			各講義：復習10分、講義70分、 理解度テスト10分	
9・10	観光とリスクマネジメント：リスクマネジメントの意味、観光と災害等との関係及び旅行業を始め観光産業におけるリスクマネジメントについて学修する。 ・リスクマネジメントと観光 ・旅行業等観光産業とリスクマネジメント				事前：出題課題の対応 事後：ニュースなどでの現状の深掘り			各講義：復習10分、講義70分、 理解度テスト10分	
11・12	負の遺産と地域社会：人災・自然災害など災害の残した負の遺産のあり方について考察する。				事前：出題課題の対応 事後：ニュースなどでの現状の深掘り			各講義：復習10分、講義70分、 理解度テスト10分	
13・14	コミュニティ社会と観光：地域におけるコミュニティ形成の目的・必要性及び現在の社会環境におけるコミュニティの内容、観光振興との関連等について学修する。				事前：出題課題の対応 事後：ニュースなどでの現状の深掘り			各講義：復習10分、講義70分、 理解度テスト10分	
15	観光振興の社会における課題と今後：これからの観光と社会におけるより良い関係について考える。				事前：出題課題の対応 事後：ニュースなどでの現状の深掘り			講義：復習60分、講義30分	
教本： 各講義時に配布					参考文献： 講義時に適宜紹介				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加及び授業態度等（30％）、小テスト・レポート等（20％）、定期試験（50％）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 今日起こっている観光に関する社会現象について平日頃からニュース等により情報収集及び真意の深堀をしておくこと。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	観光情報論（Tourism Informatics）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	飯島 祥二								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 当該授業は、観光領域での課題解決における情報系手法やその考え方の重要性を説明し、多様な計量的な手法の事例を紹介する。そして、観光実務や観光研究における情報システムの有用性を示唆し、今後の学修に役立てることを目的とする。主に、旅行者心理学・モチベーションの領域を基軸に観光行動・マーケティングへの基礎的考察を提示する。当該講義は、問題解決に際し「質問票調査」等の「実習」を予定している。また、予習・復習に関しては講義において詳細に指示する。									
授業目標： ①観光学における「情報系領域」の有用性を理解する。 ②観光系領域の学習において情報系知識（計量的手法）の重要性を理解する。 ③観光行動、観光心理学領域における計量的手法の事例を理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：シラバスの確認 事後：ノートを整理して復習		講義 90 分	
2	観光領域における情報系研究領域の役割（観光学の枠組みを通して）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
3	観光領域における情報系研究領域の役割（需要－供給、日常・非日常、居住地・目的地等の二面性を通して）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
4	旅行目的地の選択過程における観光情報（1）（旅行者意思決定プロセス・モデル）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
5	旅行目的地の選択過程における観光情報（2）（旅行目的地選択モデル）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
6	旅行目的地の選択過程における観光情報（3）（Witt & Wright の期待理論値モデル）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
7	④－⑥に関わる纏めとディスカッションと今後の展望（旅行者モチベーションの多様性(冒険－リラクスの軸など)を含め、分析手法等を紹介する）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 30 分、 ディスカッション 50 分	
8	アトラクションの認知とその総合的理解（1）（モチベーションからのアプローチ）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
9	アトラクションの認知とその総合的理解（2）（プロモーションからのアプローチ）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
10	アトラクションの認知とその総合的理解（3）（観光行動からのアプローチ）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
11	環境学と情報学（1）（人間・環境系からの視点）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
12	環境学と情報学（2）（環境計画[観光地計画]からの視点）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
13	マーケティングと情報（1）「個人差の抽出」（レパートリー・グリッド発展手法・ラダーリングによる検討の説明）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
14	マーケティングと情報（2）「各環境要素の抽出」（レパートリー・グリッド発展手法・ラダーリングと環境認識についての説明）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 40 分、 実習 40 分	
15	纏め					事前：今までの講義の復習 事後：講義全体の復習		前回の確認 10 分、講義 80 分	
教本： 指定しない。資料を配布する。					参考文献： 適時指示する。				
成績評価の方法、評価基準： 平常点（30％）、小テスト・レポート等（30％）、定期試験（40％）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 観光学に関する情報系領域の重要性を説明し、基礎的な内容を具体的に丁寧に説明する。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	4 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	観光と法（Tourism and Law）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	福島 崇宏								
履 修 条 件	前提科目	法学または法の性格と役割							
	そ の 他	なし							
授業概要： 東京オリンピック・パラリンピックの開催や外国人観光客の急激な増加などに伴い、インバウンドビジネスが急速に拡大している。そのような中で民泊やIR（統合型リゾート）など私たちの身近では新たな法制度をめぐるさまざまな問題が生じている。本授業では、このような観光に関して身近に起きる法律問題を共に考える機会を提供する。									
授業目標： 1. 社会調査結果の読み方と観光関連指標について理解する。 2. 場所に記憶されたもの（宗教、戦争、災害等）と観光との関わりと、社会における観光の意義についての理解を深める。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	インバウンド ・観光法概論・観光ビジネスと法との関連について概観する。					事前：教本第1章精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
2	インバウンド ・観光政策体系・インバウンド政策の概要について理解を深める。					事前：教本第2章精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
3	インバウンド ・観光法体系・インバウンドに関する法体系について理解を深める。					事前：教本第5章精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
4	観光まちづくりと法 ・観光まちづくりに関する法律について理解を深める。					事前：教本第15章精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
5	旅行業と法 (1) ・旅行業をめぐる法体系の全体像を知る。					事前：教本第6章精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
6	旅行業と法 (2) ・旅行業に関する個別の法律問題を考える。					事前：教本第6章精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
7	宿泊事業と法 (1) ・宿泊事業をめぐる法体系の全体像を知る。					事前：教本第7章精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
8	宿泊事業と法 (2) ・宿泊事業に関する個別の法律問題を考える。					事前：教本第7章精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
9	移動・交通手段と法 (1) ・移動・交通手段をめぐる法体系の全体像を知る。					事前：教本第8章精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
10	移動・交通手段と法 (2) ・移動・交通手段に関する個別の法律問題を考える。					事前：教本第9章精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
11	集客と法 (1) ・集客をめぐる法体系の全体像を知る。					事前：教本第10章精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
12	集客と法 (2) ・集客に関する個別の法律問題を考える。					事前：教本第12章精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
13	観光資源の保護・活用と法 (1) ・観光資源の保護と活用をめぐる法体系の全体像を知る。					事前：教本第13章精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
14	観光資源の保護・活用と法 (2) ・観光資源の保護と活用に関する個別の法律問題を考える。					事前：教本第14章精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
15	まとめ ・観光と法の全体像と争点を再確認する。					事前：教本第11章精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
教本： 高橋一夫、柏木千春編著『1からの観光事業論』碩学舎、2016年。					参考文献： 森・濱田松本法律事務所観光法プラクティスグループ編『ガイドンス インバウンド・観光法』商事法務、2019年。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（30%）、期末試験（50%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 社会の中で観光と法がどのように結びついているのかについて、日頃から新聞や報道等で取り上げられている事件や事故を基に主体的に考える習慣をつけることが大切です。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	観光文化史（History of Tourism Culture）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	飯島 祥二								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 歴史を紐解くことは、どの領域でも、又いつの時代でも肝要なことである。当該講義は、観光（観光行動）の歴史と文化について内外の研究成果を説明し、現代の実務的課題や研究方法に向けての新しい糸口を検討するための有益な視点を提供する。現在の観光学において、「旅行動機」、「旅行者の類型化」等の領域で有用な視点が提出されており、これらの成果を観光史の観点から考察することにより、今後の学修に有用な視点を提供する。また、予習・復習に関しては講義において詳細に指示する。									
授業目標： (1) 観光史の概要を理解する。 (2) 観光史の理解を通し、現在の観光現象に対する有用な知見の理解を目指す。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得				思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養		
				◎			○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション：授業の進め方や内容の説明を実施し、オリエンテーションを実施。					事前：シラバスの確認 事後：ノートを整理して復習		講義 90 分	
2	観光史の概要（観光史の歴史の変遷の俯瞰：歴史年表を通して）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
3	旅の歴史の観光学における位置づけと意義 （観光学の体系性の中での観光史の意味、Cohen(1974)の概念ツリー「旅行者の特徴と規定」に関わる考察）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 60 分、 ディスカッション 20 分	
4	旅の歴史のマクロ的アプローチ (1) (Smith(1992)の「巡礼者－旅行者(聖から俗)」のパスについて)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
5	旅の歴史のマクロ的アプローチ (2) (Cohen(1979)の「創始期巡礼、伝統的巡礼、マス観光」の対比)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
6	旅の歴史のマクロ的アプローチ (3) (近代における旅行特性の変化：Traveller と Tourist：Boorstin(1962)による)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
7	旅の歴史のマクロ的アプローチ (4) (わが国における昭和初期における「旅」から「旅行」への変遷)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 60 分、 小レポート 10 分	
8	前回まで（講義前半）の纏めと、総合的ディスカッション					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 30 分、 ディスカッション 50 分	
9	旅行者のモチベーション研究と観光史 (1) (Pearce(1982)：観光史におけるモチベーションの類型)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
10	旅行者モチベーション研究と観光史 (2) (モチベーション論から観光史へのアプローチ)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
11	観光史における旅行者類型論的分析 (1) （「共時的」と「通時的（歴史的）」との関係性）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
12	観光史における旅行者類型論的分析 (2) （旅行者類型論からの観光史へのアプローチ）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 60 分、 ディスカッション 20 分	
13	事例分析：「観光文化史」の一次資料の分析 (1) 「江戸期の美術作品を通して」					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
14	事例分析：「観光文化史」の一次資料の分析 (2) 「江戸期の文学作品を通して」					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
15	当該講義の纏め、およびディスカッション					事前：今までの講義の復習 事後：講義全体の復習		講義 60 分、 ディスカッション 30 分	
教本： 授業ごとにプリントを配布する。					参考文献： 適時指示する。				
成績評価の方法、評価基準： 平常点（30%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（40%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 共時的観光の理解も難しいが、通時的な観光理解を通して、観光学の奥深さや面白さを学修すること。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	観光文化論（Tourism and Culture）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	古賀 学								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 観光と文化（社会）の様々な関係について、観光客という視点から観光活動の現状や歴史的な経緯、各種文化の特性等を踏まえて、よりよき観光文化形成のあり方について探求する。前半は時系列からみた観光文化の変容、後半は観光空間の整備による観光文化の変容について学修する。									
授業目標： ①観光客の行動特性、観光の効果について習得する。 ②観光文化の変容形態とその要因について習得する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎							○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	
1	観光文化論の構成：観光文化論の内容及び他観光学における位置づけと関連について学修する。				事前：観光文化論の体系を理解する。 事後：観光文化の学ぶべき点について整理する。			ガイダンス・講義 80分	
2	観光と文化：観光及び文化、そして観光文化の意味について理解する。				事前：文化とは何かについて調査する。 事後：観光文化とはについて整理する。			復習 10分、講義 70分	
3・4	江戸における対州の旅の形成：江戸時代における旅の大衆化と、その目的となった宗教の旅と保養療養の旅について学修する。				事前：江戸時代の旅について調査する。 事後：温泉と宗教の旅について整理する。			復習 10分、講義 70分、 理解度テスト 10分	
5	明治の観光文化の形成の変容とキーワード：明治時代における西洋文化の流入による新たな観光活動の形成について学修する。				事前：明治時代の観光の歴史を学修する 事後：観光活動の発生と現在を比較検討する。			復習 10分、講義 70分	
6	大正時代の観光文化の変容とキーワード：明治時代を黎明期とすると大正時代は醗酵(うんじょう)期であるともいえる。また、大正モダンなどともいえあれ洋風文化が浸透し始めてくる。				事前：大正ロマンについて学修する。 事後：横浜観光と大正ロマンについて検証する。			各回：復習 10分、講義 70分	
7	昭和戦前の観光文化の変容とキーワード：昭和元年から第2次世界大戦前までの観光関連史である。観光行政の台頭とそれに伴う観光関連組織の形成などが行われた。また、自然公園行政及び法の確立により、各地で国立公園が指定された。				事前：昭和の観光史について学修する。 事後：観光の組織や法律を理解する。			各回：復習 10分、講義 70分	
8～10	昭和戦後から現代の観光文化の変容とキーワード：第2次世界大戦復興期における新たな観光の発生、高速交通体系の整備、行政、観光協会等観光関連組織の変遷、新全国総合開発計画による大規模開発やリゾート法の制定など観光を取り巻く環境の変化について学修する。				事前：昭和の観光史について学修する。 事後：戦前と戦後の観光文化の変遷について比較検討する。			復習 10分、講義 70分	
11～15	地域における観光文化の形成：都市、農山村、自然地、温泉地など地域における観光空間の整備と観光文化の形成について学修する。松江市、高柳町、富士河口湖町、箱根などを予定。				事前：観光地形成の事例について学修する。 事後：地域における観光空間の鵠尾及びより良き観光文化の形成について学修する。			11回：手順の解説 20分、 講義 70分 12～14回：復習 10分、 講義 80分 15回：復習 60分、 ディスカッション 30分	
教本： テキストは授業ごとにプリントを配布する。					参考文献： 適宜指示する。				
成績評価の方法、評価基準： 定期試験及び平常点を加味する。									
学生へのアドバイス： 観光を構成する事柄について全般的に学ぶ授業です。自身の興味の方向を見出すつもりで受講してください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。基本的には在席中はいつでも可。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	観光マーケティング論（Tourism Marketing）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	鈴木 秀 顕								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	1 回目にチーム編成をします。1 回目から出席してください。							
授業概要： 社会は生産者志向から顧客志向へと遷移している。それは観光という分野でも例外ではない。そこで本講義では観光における顧客志向の観光を知り、かつ神奈川県県央地域の観光についてディスカッションを行うことにより持続可能性の高い観光に関する理解を深める。									
授業目標： 本講義の目的は、顧客志向の観光について、観光客目線を持ったマーケティング思考を身につけることである。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎							○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	神奈川県県央地域の地域資源をサービスマーケティング思考で考える					事前：精読（3-13） 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分	
2	誘致誘客からマーケティングへ					事前：精読（23-36） 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分	
3	観光のブランドづくりとは					事前：精読（37-46） 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分	
4	強いブランドを生む					事前：精読（47-58） 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分	
5	イメージが浮かばなければ選べない					事前：精読（59-72） 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分	
6	ブランドと地名の違い					事前：精読（73-80） 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分	
7	地域の尖りを考える					事前：精読（81-96） 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分	
8	何かで一番になろう					事前：精読（97-110） 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分	
9	強いブランド					事前：精読（111-125） 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分	
10	地域の引力					事前：精読（127-142） 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分	
11	食によるブランド					事前：精読（143-169） 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分	
12	ブランドづくりの6ステップ					事前：精読（171-191） 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分	
13	観光立国について考える、質の観光という発想					事前：精読（193-222） 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分	
14	神奈川県県央地域の観光に関するワールドカフェ					事前：精読（171-191） 事後：議論レポートの作成		ワールドカフェ90分	
15	持続可能な観光の実現、グループ発表					事前：精読（223-251） 事後：テスト準備		発表70分 講義20分	
教本： 『観光ブランドの教科書』（日本経済新聞出版社）					参考文献： 神奈川県観光地図				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 神奈川県県央地域の地域資源を再発見することが求められます。また、各ディスカッションはチームでの取り組みになりますが、テストは各自の考えを記述してもらいますので、自分ごととして参加し、欠席せず積極的な参加を求めます。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	観光マーケティング論Ⅰ（Tourism MarketingⅠ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	鈴木 秀顕								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	1 回目にチーム編成をします。1 回目から出席してください。							
授業概要： 社会は生産者志向から顧客志向へと遷移している。それは観光という分野でも例外ではない。そこで本講義では観光における顧客志向の観光を知り、かつ神奈川県県央地域の観光についてディスカッションを行うことにより持続可能性の高い観光に関する理解を深める。									
授業目標： 本講義の目的は、顧客志向の観光について、観光客目線を持ったマーケティング思考を身につけることである。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎							○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	神奈川県県央地域の地域資源をサービスマーケティング思考で考える					事前：精読（3-13） 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分	
2	誘致誘客からマーケティングへ					事前：精読（23-36） 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分	
3	観光のブランドづくりとは					事前：精読（37-46） 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分	
4	強いブランドを生む					事前：精読（47-58） 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分	
5	イメージが浮かばなければ選べない					事前：精読（59-72） 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分	
6	ブランドと地名の違い					事前：精読（73-80） 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分	
7	地域の栄りを考える					事前：精読（81-96） 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分	
8	何かで一番になろう					事前：精読（97-110） 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分	
9	強いブランド					事前：精読（111-125） 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分	
10	地域の引力					事前：精読（127-142） 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分	
11	食によるブランド					事前：精読（143-169） 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分	
12	ブランドづくりの6ステップ					事前：精読（171-191） 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分	
13	観光立国について考える、質の観光という発想					事前：精読（193-222） 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分	
14	神奈川県県央地域の観光に関するワールドカフェ					事前：精読（171-191） 事後：議論レポートの作成		ワールドカフェ90分	
15	持続可能な観光の実現、グループ発表					事前：精読（223-251） 事後：テスト準備		発表70分 講義20分	
教本： 『観光ブランドの教科書』（日本経済新聞出版社）									
参考文献： 神奈川県観光地図									
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（30％）、小テスト・レポート等（20％）、定期試験（50％）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 神奈川県県央地域の地域資源を再発見することが求められます。また、各ディスカッションはチームでの取り組みになりますが、テストは各自の考えを記述してもらいますので、自分ごととして参加し、欠席せず積極的な参加を求めます。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	観光マーケティング論Ⅱ（Tourism MarketingⅡ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	鈴木 秀顕								
履 修 条 件	前提科目	観光マーケティング論Ⅰ（未取得者は相談してください）							
	そ の 他	グループワーク中心の講義になります。事前準備をしっかりとっておいてください。							
授業概要： 観光を基軸としたマーケティングにおいては、観光客目線のほか、行政目線での考え方を理解しておくことも大切である。本講義では、行政目線による観光を知り、ディスカッションで理解を深め、かつ自分事として考え、Webメディア「あつぎ学」を作り発表する。									
授業目標： 行政から見た観光を理解し、自分ごととしての思考を身につける。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	今、地域は景観形成に何を求めているのか（グループディスカッション）					事前：精読①（1-7） 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分	
2	魅力的な景観形成の理念（グループディスカッション）					事前：精読①（10-25） 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分	
3	魅力的な景観形成の戦略（グループディスカッション）					事前：精読①（28-47） 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分	
4	人を呼び込む景観まちづくりの技法（グループディスカッション）					事前：精読①（50-95） 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分	
5	「まち」を読み解く視点 事例：江の島（グループワーク、発表）					事前：精読①（98-132） 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分	
6	観光と観光産業（グループディスカッション、発表）					事前：精読②（10-39） 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分	
7	地域威厳と観光資源の活用（グループディスカッション、発表）					事前：精読②（40-74） 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分	
8	地域ブランド戦略（グループディスカッション、発表）					事前：精読②（75-111） 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分	
9	観光と文化・環境問題と資源（グループディスカッション、発表）					事前：精読②（112-137） 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分	
10	事例：門司港（グループワーク、発表）					事前：精読①（133-165） 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分	
11	事例：湘南C-X・事例：長浜（グループワーク、発表）					事前：精読①（166-229） 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分	
12	事例：岩瀬・足守（グループワーク、発表）					事前：精読①（230-257） 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分	
13	事例：湘南鶴沼（くげぬま）・小布施（グループワーク、発表）					事前：精読①（258-290） 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分	
14	地方政府の時代における「景観まちづくり」の課題と展望（ディスカッション、発表）					事前：精読①（304-320） 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分	
15	「あつぎ学」発表会					事前：発表準備 事後：テスト準備		発表70分 講義20分	
教本： ①『人を呼び込むまちづくり』（ぎょうせい） ②『観光コーディネータ学』（日本販路コーディネータ協会出版局）									
参考文献： 『自治体職員のための観光政策立案必携』（第一法規）									
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： グループワーク中心の講義になります。各自がしっかり準備をして講義に臨むようにしてください。また、Webメディア「あつぎ学」は公開します。学生ならではのアイデアを出せるよう、しっかり講義に臨んでください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	韓国語Ⅰ (KoreanⅠ)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	南 春英								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	韓国語を母語としないこと。							
授業概要： 韓国語を初歩から学習する。まず、韓国語の文字・発音を正確に覚え、基本的な文法を学んでいく。									
授業目標： 韓国語の文字（＝ハングル）を読み、書けるようにすること、基本的な語彙を習得すること、基本的な文法をマスターすることを目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス＆韓国語の概要について説明する。 基本母音字の形態と発音を紹介し、読み書きの練習を行う。					事前：なし 事後：母音字を暗記する		講義 60分 演習 30分	
2	基本母音字の形態と発音を紹介し、読み書きの練習を行う。					事前：母音字を暗記する 事後：母音字と単語を暗記する		講義 30分 演習 60分	
3	基本子音字の形態と発音を紹介し、読み書きの練習を行う。 「ㄱ」から「ㄴ」まで					事前：母音字を暗記する 事後：子音字を暗記する		講義 60分 演習 30分	
4	基本子音字の形態と発音を紹介し、読み書きの練習を行う。 「ㄷ」から「ㄹ」まで					事前：子音字を暗記する 事後：子音字を暗記する		講義 60分 演習 30分	
5	子音字の激音形態と発音を紹介し、読み書きの練習を行う。					事前：子音字を確認する 事後：激音字を暗記する		講義 60分 演習 30分	
6	子音字の濃音の形態と発音を紹介し、読み書きの練習を行う。					事前：子音字を確認する 事後：濃音字を暗記する		講義 60分 演習 30分	
7	中間試験					事前：復習する 事後：パッチムを予習する		講義 30分 演習 60分	
8	終声の「パッチム」の仕組みを紹介し、読み書きの練習を行う。 <k 型>から<p 型>まで					事前：激音と濃音字を暗記する 事後：パッチムを暗記する		講義 60分 演習 30分	
9	終声の「パッチム」の仕組みを紹介し、読み書きの練習を行う。 <m 型>から<l 型>まで					事前：パッチムを暗記する 事後：復習する		講義 60分 演習 30分	
10	合成母音字の形態と発音を紹介し、読み書きの練習を行う。					事前：合成母音字を予習する 事後：合成母音字を暗記する		講義 60分 演習 30分	
11	発音変化の仕組みについて説明をし、発音の練習を行う。					事前：合成母音字を暗記する 事後：例を読み込んで暗記する		講義 60分 演習 30分	
12	挨拶の言葉を紹介し、読み書きの練習を行う。					事前：発音の変化を暗記する 事後：挨拶の言葉を暗記する		講義 60分 演習 30分	
13	発音と会話練習					事前：母音字と子音字の復習をする 事後：会話練習を行う		講義 30分 演習 60分	
14	発音と会話試験					事前：挨拶の言葉と配布文章を暗記する 事後：全体の語彙を暗記する		講義 30分 演習 60分	
15	全体の復習をする。 筆記試験を行う。					事前：1 学期の内容をまとめる 事後：なし		演習 30分 試験 60分	
教本：参考文献： 「ソウルアカデミー 韓国語〈1〉」 蒼学舎 金 宰郁									
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（20％）、小テスト・レポート等（30％）、定期試験（50％）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 必ず復習をして、授業で学習した内容は当週に覚えましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	韓国語Ⅱ（KoreanⅡ）						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	南 春英								
履 修 条 件	前提科目	韓国語Ⅰ							
	そ の 他	韓国語を母語としないこと。韓国語文字の読み書きができること。							
授業概要： 春学期に引き続き、韓国語の基本的な文法を学習する。また、実際の会話でよく使う表現文型を紹介する。									
授業目標： 基本的な文法と語彙をさらに習得し、簡単な文の読み書きができることを目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	前期の内容を復習する。					事前：前期の内容を復習する 事後：前期の内容を復習する		講義 30 分 演習 60 分	
2	単語と「～は」を覚え、練習を行う。					事前：配布した単語を予習する 事後：配布の課題を行う		講義 60 分 演習 30 分	
3	「～です／～ですか」を覚え、練習を行う。					事前：単語を暗記する 事後：配布の課題を行う		講義 60 分 演習 30 分	
4	単語と「～です（か）」を覚え、練習を行う。					事前：単語を暗記する 事後：配布の課題を行う		講義 30 分 演習 60 分	
5	漢数字を覚え、練習を行う。					事前：配布の課題を行う 事後：漢数字を暗記する		講義 30 分 演習 60 分	
6	単語と「～が」「誰」を覚え、練習を行う。					事前：漢数字を暗記する 事後：配布の課題を行う		講義 30 分 演習 60 分	
7	「～ではありません」を覚え、練習を行う。					事前：単語と文法を暗記する 事後：配布の課題を行う		講義 30 分 演習 60 分	
8	中間テスト					事前：単語と文法を暗記する 事後：語彙の発音練習する		講義 30 分 演習 60 分	
9	単語と「～に」、固有数字を覚え、練習を行う。					事前：漢数字を確認する 事後：配布の課題を行う		講義 30 分 演習 60 分	
10	「あります（います）／ありません（いません）」を覚え、練習を行う。					事前：単語と文法を暗記する 事後：配布の課題を行う		講義 30 分 演習 60 分	
11	単語と「～の」「何」を覚え、練習を行う。 曜日と助詞「と」「から」「まで」を使った文章作りを行う。					事前：単語と文法を暗記する 事後：配布の課題を行う		講義 30 分 演習 60 分	
12	固有数字を覚え、練習を行う。					事前：固有数字を確認する 事後：配布の課題を行う		講義 30 分 演習 60 分	
13	発音と会話練習					事前：発音の練習をする 事後：配布の課題を行う		講義 30 分 演習 60 分	
14	発音と会話テスト					事前：第 1 ～ 5 課の本文を暗記する 事後：全体の語彙と文法を暗記する		演習 90 分	
15	全体を復習する。 テストを行う。					事前：1 学期の内容をまとめる 事後：なし		演習 30 分 テスト 60 分	
教本：参考文獻： 「ソウルアカデミー 韓国語〈1〉」 蒼学舎 金 宰郁									
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（20％）、小テスト・レポート等（30％）、定期試験（50％）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 必ず復習をして、授業で学習した内容は当週に覚えましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	韓国語コミュニケーション (Korean Communication)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	南 春英								
履 修 条 件	前提科目	韓国語Ⅰと韓国語Ⅱ履修済、A評価以上							
	そ の 他	なし							
授業概要： この授業は韓国語Ⅰと韓国語Ⅱで学んだことを土台に、社会的活動を実現するために必要な韓国語について学習者が主体的に学ぶ授業である。コミュニケーション能力をコミュニケーションする中で学ぶことになる。									
授業目標： インタビューから得られたことをもとに、自己紹介と他人と韓国語でコミュニケーションすることができる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス、韓国語プレゼンテーションの意義を説明する。					事前：教科書の準備をする 事後：自己紹介を予習する		講義 90 分	
2	自己紹介に関して学習する。					事前：自己紹介を予習する 事後：自己紹介する準備		講義 40 分 演習 50 分	
3	自己紹介する。					事前：自己紹介する準備 事後：自己紹介を復習		講義 40 分 演習 50 分	
4	他己紹介をする（グループ活動）。					事前：他己紹介をする準備 事後：他己紹介を復習		講義 40 分 演習 50 分	
5	もの、場所に関する表現を学習する。					事前：他己紹介を復習 事後：もの、場所に関する表現を復習		講義 40 分 演習 50 分	
6	学内の人、もの、場所、ことを表現する。					事前：学内の場所の表現を予習 事後：学内の場所の表現を復習		講義 40 分 演習 50 分	
7	学外や地域の人、もの、場所、ことを表現する。					事前：学外や地域の表現を予習 事後：学外や地域の表現を復習		講義 40 分 演習 50 分	
8	レストランでのメニューの注文に関する表現を学習する。					事前：注文に関する表現を予習 事後：注文に関する表現を復習		講義 40 分 演習 50 分	
9	レストランでのメニューの注文を表現する（グループ活動）。					事前：注文に関する表現を復習 事後：インタビューする内容を考える		演習 90 分	
10	グループ活動① インタビューする内容について考える。					事前：インタビューする内容を考える 事後：予行練習		講義 40 分 演習 50 分	
11	グループ活動② インタビューする予行練習をする。					事前：予行練習 事後：振り返り		演習 90 分	
12	グループ活動③ インタビューした結果を成果物にまとめる。					事前：インタビューの準備をする 事後：グループ活動の反省点を考える		演習 90 分	
13	韓国語で動画を制作する。					事前：パソコン準備 事後：動画を制作の振り返り		演習 90 分	
14	他の人の動画を見て、自分の韓国語を自己評価する。					事前：動画を制作の振り返り 事後：発表の振り返り		講義 20 分 演習 70 分	
15	まとめ					事前：まとめ		講義 40 分 演習 50 分	
教本：「ソウルアカデミー韓国語Ⅰ」金宰郁他、蒼学舎、¥2,000 参考文献：「ソウルアカデミー韓国語Ⅰ」Workbook、金宰郁他、蒼学舎、¥1,000									
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 初回の授業に必ず出席すること。語学は聞いてから話すものなのでとりあえずCDを聞くこと。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	韓国文化研究 A（Korean Studies A）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	南 春英								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： この授業では、韓国の文化について学ぶ。韓国の文化に関する基礎知識を身に付け、隣国に対する理解を深めることと、異文化としての韓国を理解することが授業の目的である。									
授業目標： 隣りの国である韓国を身近く感じ、その文化を理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得				思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養		
○							◎		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス 授業内容の説明					事前：なし 事後：韓国に関する情報を集め		講義	
2	韓国の自然環境					事前：韓国ニュースを要約 事後：疑問点などを各自調べる		講義	
3～5	韓国の料理（主食）					事前：韓国ニュースを要約 事後：疑問点などを各自調べる		講義	
6・7	韓国の料理（おかず）					事前：韓国ニュースを要約 事後：疑問点などを各自調べる		講義	
8～10	韓国の料理（調味料、お酒など）					事前：韓国ニュースを要約 事後：疑問点などを各自調べる		講義	
11～14	発表 日本 VS 韓国 伝統文化比較					事前：発表準備 事後：発表の改善点を検討		発表・討論	
15	まとめ					事前：復習 事後：韓国文化理解ができたか		講義	
教本： なし。必要に応じてプリントを配布します。					参考文献： 書籍や文献は授業のなかで随時紹介します。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（20%）、発表（30%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 韓国に対する関心を持ち、ニュースや色々な方法を通じて韓国に関する情報を集めておいてください。									
オフィスアワー：初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	韓国文化研究 B（Korean Studies B）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	南 春英								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： この授業では、韓国の文化について学ぶ。韓国の文化に関する基礎知識を身に付け、隣国に対する理解を深めることと、異文化としての韓国を理解することが授業の目的である。									
授業目標： 隣りの国である韓国を身近く感じ、その文化を理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○							◎		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス 授業内容の説明					事前：なし 事後：韓国に関する情報を集め		講義	
2	韓国の経済と産業					事前：韓国ニュースを要約 事後：疑問点などを各自調べる		講義	
3	韓国の世界遺産概要					事前：韓国ニュースを要約 事後：疑問点などを各自調べる		講義	
4～7	韓国の服装（韓服、飾りなど）					事前：韓国ニュースを要約 事後：疑問点などを各自調べる		講義	
8～10	韓国の歳時風俗（しめ縄、トル、祭事など）					事前：韓国ニュースを要約 事後：疑問点などを各自調べる		講義	
11～14	発表 韓国の世界遺産を調べる					事前：発表準備 事後：発表の改善点を検討		発表・討論	
15	まとめ					事前：復習 事後：韓国文化理解ができたか		講義	
教本： なし。必要に応じてプリントを配布します。					参考文献： 書籍や文献は授業のなかで随時紹介します。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（20%）、発表（30%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 韓国に対する関心を持ち、ニュースや色々な方法を通じて韓国に関する情報を集めておいてください。									
オフィスアワー：初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	監査論（Auditing）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	高橋 琢也								
履 修 条 件	前提科目	会計学Ⅰ・Ⅱ							
	そ の 他	なし							
授業概要： 企業が作成する財務諸表は、必ずしも適正であるとは言えない。そこで、作成した財務諸表が適正に作成されているのかを調査するために、「監査」をする必要がある。本講義では、財務諸表と監査について学ぶ。なお、各回の最初に理解度の確認として、前回の内容の小テストを実施する。									
授業目標： 監査の役割やプロセスなどについて理解を深めることを目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	監査の必要性と法定監査制度 監査の必要性と法定監査制度について解説する。					事前：テキスト2-19 頁 事後：復習ノートの作成		講義 90 分	
2	監査全体の流れ 監査のプロセスについて解説する。					事前：テキスト22-37 頁 事後：復習ノートの作成		小テスト 20 分 講義 70 分	
3	監査基準 1（監査基準の意義、制定、改訂） 監査基準の意義、制定、改訂について解説する。					事前：テキスト40-52 頁 事後：復習ノートの作成		小テスト 20 分 講義 70 分	
4	監査基準 2（監査基準の構成、不正リスク対応基準） 監査基準の構成と不正リスク対応基準について解説する。					事前：テキスト52-61 頁 事後：復習ノートの作成		小テスト 20 分 講義 70 分	
5	リスク・アプローチ監査 リスク・アプローチ監査について解説する。					事前：テキスト63-79 頁 事後：復習ノートの作成		小テスト 20 分 講義 70 分	
6	内部統制 内部統制の構造やその限界について解説する。					事前：テキスト82-93 頁 事後：復習ノートの作成		小テスト 20 分 講義 70 分	
7	監査計画 監査計画に関わる手続きについて解説する。					事前：テキスト96-111 頁 事後：復習ノートの作成		小テスト 20 分 講義 70 分	
8	監査の実施 1（監査とリスク） リスク・アプローチ監査とリスクについて解説する。					事前：テキスト114-128 頁 事後：復習ノートの作成		小テスト 20 分 講義 70 分	
9	監査の実施 2（重要性、監査の結果） 監査における重要性や監査結果の取りまとめを解説する。					事前：テキスト128-135 頁 事後：復習ノートの作成		小テスト 20 分 講義 70 分	
10	監査結果の報告 1（監査報告書） 監査報告書の意義や構成について解説する。					事前：テキスト137-152 頁 事後：復習ノートの作成		小テスト 20 分 講義 70 分	
11	監査結果の報告 2（監査意見） 監査意見の種類や追記事項について解説する。					事前：テキスト152-165 頁 事後：復習ノートの作成		小テスト 20 分 講義 70 分	
12	監査の品質管理 1（前半） 監査に関する品質管理基準について解説する。					事前：テキスト168-179 頁 事後：復習ノートの作成		小テスト 20 分 講義 70 分	
13	監査の品質管理 2（後半） 前回に続き、監査に関する品質管理基準について解説する。					事前：テキスト179-189 頁 事後：復習ノートの作成		小テスト 20 分 講義 70 分	
14	内部統制監査 内部統制監査について解説する。					事前：テキスト202-219 頁 事後：復習ノートの作成		小テスト 20 分 講義 70 分	
15	問題演習 授業内容の理解度をみる。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		問題演習 90 分	
教本： 長吉眞一 他『監査論入門』（最新版）、中央経済社。					参考文献： 蟹江章 他『スタンダードテキスト監査論』（最新版）、中央経済社。				
成績評価の方法、評価基準： 試験（100％）で評価する。									
学生へのアドバイス： 日々の予習復習を怠らないこと。授業妨害になることをしないこと。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義 ・ 演 習
授 業 科 目 (英 文)	漢 文 学 (Chinese Classical Literature)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	戸 高 留 美 子								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	適 宜 指 示 す る							
授 業 概 要： 漢和辞典や初歩的な解説書を参照しながら中国古典文学や漢文学について学ぶ。また、現在私たちの生活の中で活用されている故事成語や漢字文化について学ぶ。授業期間の後半は教材のパワーポイントなどをつかいながら受講者自身がグループを組んで発表をする。									
授 業 目 標： 漢詩文の基本的知識を習得する。漢詩文や漢字文化の知識を身に付け自身の生活と結びつける。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画（詳細に記入）					事 前 ・ 事 後 学 習（学 習 課 題）		授 業 形 態	
1	ガイダンス 発表のためのグループ分け					事前：教科書の購入 事後：演習問題の解答		ガイダンス 30分	
2	漢字、漢語の成り立ち 基本的文法 返読文字 置字					事前：発表準備 グループ学習 事後：課題の解答：置字		前回の振り返り 10分 講義 50分 演習 20分 次回予告 10分	
3	故事成語 現代に生きる故事成語① 基本的文法 再読文字					事前：発表準備・課題選定 事後：課題の解答：再読文字		前回の振り返り 10分 講義 50分 演習 20分 次回予告 10分	
4	故事成語 現代に生きる故事成語② 基本的文法 否定①					事前：発表準備・調査 事後：課題の解答：否定形①		前回の振り返り 10分 講義 50分 演習 20分 次回予告 10分	
5	漢詩の名作① 漢詩の基本的知識 基本的文法 否定②					事前：発表準備・調査 事後：課題の解答：否定形②		前回の振り返り 10分 講義 50分 演習 20分 次回予告 10分	
6	漢詩の名作② 中国文学史① 文法 特別な読み方をする文字					事前：発表準備・調査まとめ 事後：課題の解答：文法		前回の振り返り 10分 講義 50分 演習 20分 次回予告 10分	
7	親しまれる名文①思想 中国文学史② 基本的文法 使役形					事前：発表準備・発表物作成 事後：課題の解答：使役形		前回の振り返り 10分 講義 50分 演習 20分 次回予告 10分	
8	親しまれる名文②思想 発表① 基本的文法 受身形					事前：発表準備・発表物作成 事後：課題の解答：受身		前回の振り返り 10分 講義 50分 演習 20分 次回予告 10分	
9	親しまれる名文③歴史 発表② 故事成語					事前：発表準備・発表物作成 事後：授業の感想を書く		前回の振り返り 10分 講義 50分 演習 20分 次回予告 10分	
10	親しまれる名文④歴史 基本的文法 発表③ 故事成語					事前：発表準備・発表物作成 事後：授業の感想を書く		前回の振り返り 10分 講義 50分 演習 20分 次回予告 10分	
11	中国由来の日本の文化 節句 発表④ 中国の有名な思想家					事前：発表準備・発表物作成 事後：授業の感想を書く		前回の振り返り 10分 講義 50分 演習 20分 次回予告 10分	
12	日本文学と漢文 発表⑤中国の有名な思想家					事前：発表準備・発表物作成 事後：授業の感想を書く		前回の振り返り 10分 講義 50分 演習 20分 次回予告 10分	
13	日本文学と漢詩 夏目漱石 発表⑥ 中国の有名な詩人					事前：夏目漱石について調べる 事後：本講義全体の振り返り		前回の振り返り 10分 講義 50分 演習 20分 次回予告 10分	
14	学期末試験					事前：学期末試験の準備 事後：学期末試験の復習		学期末試験 90分	
15	学期末試験解説 事後指導・補足など					事前： 事後：		テスト返却 10分、講義 80分	
教 本： 配布プリント 『社会人のための漢詩漢文小百科』田部井文雄ほか大修館書店 1990年									
参 考 文 献： 『漢詩鑑賞辞典』石川忠久 講談社学術文庫 講談社 2009年 ほか									
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準： 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス： 教本をうまく活用しながら課題を達成し発表の準備をしてください。グループ発表の準備は事前に予定を立てメンバー同士連携して取り組んでください。									
オ フ ィ ス ア ヱ ー： 初回講義日に伝える。授業後15分程度を予定。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	管理会計論 (Managerial Accounting)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	川 口 修								
履 修 条 件	前提科目	簿記論Ⅰ・Ⅱ、経営管理論Ⅰ・Ⅱ							
	そ の 他	なし							
授業概要： この講義では、企業の目的とそれを達成するために遂行される経営者職能と会計の役立ちを論ずる。企業の活動は、資金の調達から生産・販売・流通に至る広範囲なものであり、最近では製品の廃棄処分に至るまでの過程を考慮することが求められるようになってきている。このような活動を計画しそれを実現・統制するために経営者が存在する。経営者職能は経営の階層によってそれぞれ異なるが、各階層での職務を効率的に遂行するために会計情報が必要とされる。 管理会計とは、この会計情報をいう。この講義では、Top Management の職能に焦点を当てて講義を行う。									
授業目標： 企業の経営管理者にとってその職務遂行に会計情報は、必須のものである。この講義では、経営者の職務・目的の理解とその遂行に必要な会計情報の関連を論ずる。企業経営で行われる管理会計の実務を理解し、その基礎にある考え方を理解することを目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	序					事前：テキストの予習 事後：管理会計の理解		講義 90分	
2	財務会計と管理会計					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
3	企業とその目標					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
4	会計情報システム					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
5	管理会計の意義					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
6	経営者職能					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
7	意思決定と計画					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
8	統制					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
9	問題発見のための会計 ①					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
10	問題発見のための会計 ②					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
11	問題発見のための会計 ③					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
12	収益性分析 ①					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
13	安全性分析 ①					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
14	安全性分析 ②					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
15	まとめ					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
教本： 初回に指示する。					参考文献： 「管理会計」岡本・廣本・尾畑・挽著 中央経済社				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 平常点（20％）定期試験（80％）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 休まないことと、予習・復習の実施を希望する。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	企業組織法Ⅰ（Corporate LawⅠ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	新城 将孝								
履 修 条 件	前提科目	私法学Ⅰ・Ⅱ							
	そ の 他	なし							
授業概要： 本講義は、会社法総論について触れ、その後は株式会社法を対象とする。株式会社の設立、株式等についてその概略を講義する。									
授業目標： 会社、その中でも株式会社についての理解を深める。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
			○				◎		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	会社法の概要 会社法・株式会社法とはどのような法であるかを考える。					事前：講義内容の確認 事後：講義内容の復習		講義 60分 質疑応答 30分	
2	会社の権利能力 会社お権利能力について考える。					事前：講義内容の確認 事後：講義内容の復習		講義 60分 質疑応答 30分	
3	法人格否認の法理 法人格と取引の安全について考える。					事前：講義内容の確認 事後：講義内容の復習		講義 60分 質疑応答 30分	
4	会社の種類 合名会社、合資会社、合同会社、株式会社について考える。					事前：講義内容の確認 事後：講義内容の復習		講義 60分 質疑応答 30分	
5	株式会社法の基礎 株式、有限責任、強行法規性等、その基礎について考える。					事前：講義内容の確認 事後：講義内容の復習		講義 60分 質疑応答 30分	
6	株式会社の設立(1) 募集設立、発起設立（一般概要）等について考える。					事前：講義内容の確認 事後：講義内容の復習		講義 60分 質疑応答 30分	
7	株式会社の設立(2) 具体的設立手続きについて考える。					事前：講義内容の確認 事後：講義内容の復習		講義 60分 質疑応答 30分	
8	株式会社の設立(3) 設立登記と会社成立の効果について考える。					事前：講義内容の確認 事後：講義内容の復習		講義 60分 質疑応答 30分	
9	設立中の会社 設立中の会社について考える。					事前：講義内容の確認 事後：講義内容の復習		講義 60分 質疑応答 30分	
10	株式の基礎 株式の意義、株式の種類等、その基礎について考える。					事前：講義内容の確認 事後：講義内容の復習		講義 60分 質疑応答 30分	
11	種類株式 種類株式について考える。					事前：講義内容の確認 事後：講義内容の復習		講義 60分 質疑応答 30分	
12	株券、株式の流通 株券、株式の流通、株式の譲渡制限について考える。					事前：講義内容の確認 事後：講義内容の復習		講義 60分 質疑応答 30分	
13	自己株式の取得 自己株式の取得について考える。					事前：講義内容の確認 事後：講義内容の復習		講義 60分 質疑応答 30分	
14	株式の消却・併合・分割 株式の消却・併合・分割について考える。					事前：講義内容の確認 事後：講義内容の復習		講義 60分 質疑応答 30分	
15	前期講義の総まとめ					事前：講義内容の確認 事後：講義内容の総まとめ		講義 60分 質疑応答 30分	
教本： 田中亘『会社法 第2版』東京大学出版会。					参考文献： 江頭憲治郎『株式会社法 第8版』有斐閣。 神田秀樹『会社法 第23版』法律学講座双書。 別冊ジュリスト『会社法判例百選 第4版』。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（25%）、小テスト・レポート等（25%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 授業では、六法は必ず持ってくる。上記教本又は参考文献、複数購入し、自宅学習も積極的に務めてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	企業組織法Ⅱ（Corporate Law Ⅱ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	新城 将孝								
履 修 条 件	前提科目	私法学Ⅰ・Ⅱ、企業組織法Ⅰ、ビジネス法Ⅰ							
	そ の 他	なし							
授業概要： 本講義は、企業組織法Ⅰの続きとする。本講義では、株式会社の機関を中心において進める。									
授業目標： 会社、その中でも株式会社についての理解を深めていきたい。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
			○				◎		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	株式会社における機関の概要 株式会社における機関について総論的に考える。					事前：講義内容の確認 事後：講義内容の復習		講義 60分 質疑応答 30分	
2	株主総会(1) 株主総会の意義、総会の招集等について考える。					事前：講義内容の確認 事後：講義内容の復習		講義 60分 質疑応答 30分	
3	株主総会(2) 株主提案権、議決権、総会の決議等について考える。					事前：講義内容の確認 事後：講義内容の復習		講義 60分 質疑応答 30分	
4	株主総会(3) 株主総会の決議の瑕疵等について考える。					事前：講義内容の確認 事後：講義内容の復習		講義 60分 質疑応答 30分	
5	取締役・取締役会・代表取締役(1) 取締役の選任・資格・終任等について考える。					事前：講義内容の確認 事後：講義内容の復習		講義 60分 質疑応答 30分	
6	取締役・取締役会・代表取締役(2) 会社の業務執行と代表について考える。					事前：講義内容の確認 事後：講義内容の復習		講義 60分 質疑応答 30分	
7	取締役・取締役会・代表取締役(3) 取締役会について考える。					事前：講義内容の確認 事後：講義内容の復習		講義 60分 質疑応答 30分	
8	取締役・取締役会・代表取締役(4) 代表取締役について考える。					事前：講義内容の確認 事後：講義内容の復習		講義 60分 質疑応答 30分	
9	会社役員・会計参与 会社役員としての会計参与について考える。					事前：講義内容の確認 事後：講義内容の復習		講義 60分 質疑応答 30分	
10	監査役・監査役会 監査役・監査役会について考える。					事前：講義内容の確認 事後：講義内容の復習		講義 60分 質疑応答 30分	
11	指名委員会等設置会社 指名委員会等設置会社について考える。					事前：講義内容の確認 事後：講義内容の復習		講義 60分 質疑応答 30分	
12	監査等委員会設置委員会会社 監査等設置員会社について考える。					事前：講義内容の確認 事後：講義内容の復習		講義 60分 質疑応答 30分	
13	会社と会社役員等との法律関係・役員等の義務 会社と会社役員等との法律関係・その義務について考える。					事前：講義内容の確認 事後：講義内容の復習		講義 60分 質疑応答 30分	
14	役員等の責任 会社に対する責任、第三者に対する責任について考える。					事前：講義内容の確認 事後：講義内容の復習		講義 60分 質疑応答 30分	
15	後期講義の総まとめ					事前：講義内容の確認 事後：講義内容の総まとめ		講義 60分 質疑応答 30分	
教本： 田中亘『会社法 第2版』東京大学出版会。					参考文献： 江頭憲治郎『株式会社法 第8版』有斐閣。 神田秀樹『会社法 第23版』法律学講座双書。 別冊ジュリスト『会社法判例百選 第4版』。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（25%）、小テスト・レポート等（25%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 授業では、六法は必ず持ってくる。上記教本又は参考文献、複数購入し、自宅学習も積極的に務めてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	企業文化論Ⅰ（Corporate CultureⅠ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	小 柏 喜 久 夫								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 個人に個性があるように、企業も個々に企業文化を有しアイデンティティの確立を図っています。また、その一方で、従来の組織構造、コントロール・システム、評価システム、戦略技法の枠組みでは捉えきれない世界を考察するためにも、企業文化の視点の重要性が指摘されています。そこで、この授業では、まず企業文化に関する諸問題を洗い出し、次いでそれらを理解する枠組みを歴史的・理論的視点から整理したうえで、企業文化論の内容を具体的に学習していきます。									
授業目標： 企業文化論のフレームワークを通して企業文化理解の基礎力を養成します。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎							○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	
1	ガイダンス				事前：シラバスの通読 事後：シラバスに沿って要点をまとめる			講義 70分質疑応答 20分	
2	企業文化論生成の背景を1980年代のアメリカに探る				事前：参考文献の読み取り 事後：ノート・教本1により背景をまとめる			講義 70分質疑応答 20分	
3	企業文化論の諸問題を俯瞰する				事前：印刷資料の読み取り 事後：ノート・印刷資料により諸問題を整理する			講義 70分質疑応答 20分	
4	企業文化論の学説（1）——ピーターズ&ウォーターマンの研究を検討する				事前：参考文献の読み取り 事後：ノート・教本1により要点をまとめる			講義 70分質疑応答 20分	
5	企業文化論の学説（2）——ディール&ケネディの研究を検討する				事前：参考文献の読み取り 事後：ノート・教本1により要点をまとめる			講義 70分質疑応答 20分	
6	企業文化論の学説（3）——シャインの研究を検討する				事前：参考文献の読み取り 事後：ノート・教本1により要点をまとめる			講義 70分質疑応答 20分	
7	企業文化論の学説（4）——コッター&ヘスケットの研究を検討する				事前：参考文献の読み取り 事後：ノート・教本1により要点をまとめる			講義 70分質疑応答 20分	
8	企業文化概念を吟味：概念の多義・多様性の理解と本講義での定義づけを行う				事前：印刷資料の読み取り 事後：ノート・印刷資料により要点をまとめる			講義 70分質疑応答 20分	
9	企業文化の構造（1）——文化の構成要素を整理する：基本的仮定、価値観、思考様式				事前：参考文献の読み取り 事後：ノート・教本1により要点をまとめる			講義 70分質疑応答 20分	
10	企業文化の構造（2）——文化の構成要素を整理する：行動様式、人工物、コミュニケーションズ				事前：参考文献の読み取り 事後：ノート・教本1により要点をまとめる			講義 70分質疑応答 20分	
11	企業文化の機能（1）——文化の働きを対個人、対組織、対社会において検討する				事前：参考文献の読み取り 事後：ノート・教本1により要点をまとめる			講義 70分質疑応答 20分	
12	企業文化の機能（2）——文化の逆機能を解説する				事前：参考文献の読み取り 事後：ノート・教本1により要点をまとめる			講義 70分質疑応答 20分	
13	企業文化の類型——文化が型をなすことを理解する				事前：印刷資料の読み取り 事後：ノート・印刷資料により要点をまとめる			講義 70分質疑応答 20分	
14	企業文化のメカニズムとダイナミズムを解説する				事前：参考文献の読み取り 事後：ノート・教本1により要点をまとめる			講義 70分質疑応答 20分	
15	企業と文化、企業の文化——文化の重層性を理解する				事前：参考文献の読み取り 事後：ノート・教本1により要点をまとめる			講義 70分質疑応答 20分	
教本： 1. E. H. シャイン『企業文化』白桃書房、¥3,500＋税 2. 印刷資料も用います。					参考文献： 授業の中で随時紹介します。				
成績評価の方法、評価基準： 定期試験（100％）で総合評価します。									
学生へのアドバイス： 欠席しないことが大前提です。粘り強い学習努力を期待しています。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	企業文化論Ⅰ（Corporate CultureⅠ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	仲 伯 維								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 文化がそうであるように「企業文化」も、さまざまな捉え方がある。企業文化は、営利性、公共性、社会性を構成要素として成り立っている。営利性は、企業の継続と成長を制度化し、革新を楽しめる企業利益である。企業の発展にとって、企業文化が大きく関係していることを解明する。									
授業目標： 企業の発展と生き残りに企業文化が不可欠であることを理解することが出来る。 企業を社会との関係から捉える視点を身につける。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎							○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	組織・経営・企業文化論の系譜					事前：なし 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
2	多彩な文化概念と文化の要素					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
3	企業の知性、そして経営美					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
4	経営理念と企業ビジョン					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
5	目標管理の現状と課題					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
6	企業組織の価値体系					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
7	組織文化・経営文化・企業文化のパターン					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
8	産業文化、業種文化					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
9	企業文化を識る					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
10	企業文化の機能性に関して					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
11	企業文化はどう業績とリンクするか					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
12	業績評価システム					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
13	文化の視点で企業経営を診る					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
14	21世紀の企業像					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
15	企業文化の革新と創造					事前：前回の配布資料を読む 事後：なし		講義	
教本： 教材は授業時に配布する。					参考文献： 梅澤正『組織文化 経営文化 企業文化』同文館。 村山元英『企業文化論原論』中京大学経営学部。 松村洋平編著『企業文化 経営理念とCSR』学文社。				
成績評価の方法、評価基準： 授業内容への参加状況等(30%)、小テスト(10%)、レポート(60%)等で総合評価する。なお、出席回数が2/3以上に満たない場合は評価の対象としない。									
学生へのアドバイス： よい成績を得るには、日々の予習・復習、毎回の出席、授業中の積極的な発言が必要になる。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	企業文化論Ⅱ（Corporate Culture Ⅱ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	小 柏 喜 久 夫								
履 修 条 件	前提科目	企業文化論Ⅰ							
	そ の 他	なし							
授業概要： 「企業文化のダイナミズムを読み解き、そのダイナミズムをマネジメントすることがリーダーないし経営者の仕事である」と言われます。その意味の理解を事例およびモデル学習によりながら深め、企業が自らの文化の確認・形成・再生・変革・創造を行う過程で「変わらぬもの」と「変えるもの」の見極めを通して企業文化のあり方を追求している姿を見ていきます。									
授業目標： 企業文化の構造と機能の理解を深め、企業文化のダイナミズムをマネジメントする力を養います。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎							○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	
1	ガイダンス				事前：シラバスの通読 事後：シラバスに沿って要点をまとめる			講義 70分質疑応答 20分	
2	企業文化のダイナミズムとリーダーシップ——企業文化論から見たリーダーシップの本質を説明する				事前：参考文献の読み取り 事後：ノート・参考文献により要点をまとめる			講義 70分質疑応答 20分	
3	企業文化の形成と定着の過程を説明する				事前：参考文献の読み取り 事後：ノート・参考文献により要点をまとめる			講義 70分質疑応答 20分	
4	事例1 リクルートの組織文化(1)：文化の形成・定着過程の経緯を解説する				事前：教本1の読み取り 事後：ノート・教本1により経緯をまとめる			講義 70分質疑応答 20分	
5	事例1 リクルートの組織文化(2)：文化の形成・定着過程を解説する				事前：教本1の読み取り 事後：ノート・教本1により要点をまとめる			講義 70分質疑応答 20分	
6	事例1 リクルートの組織文化(3)：文化の形成・定着過程に関する課題学習を行う				事前：教本1の熟読 事後：課題学習の自己チェック			講義 45分小テスト 45分	
7	企業文化の固定化と逆機能の過程を説明する				事前：参考文献の読み取り 事後：ノート・参考文献により要点をまとめる			講義 70分質疑応答 20分	
8	事例2 JR西日本のトラブル(1)：文化の固定化・逆機能過程の経緯を解説する				事前：教本1の読み取り 事後：ノート・教本1により経緯をまとめる			講義 70分質疑応答 20分	
9	事例2 JR西日本のトラブル(2)：文化の固定化・逆機能過程を解説する				事前：教本1の読み取り 事後：ノート・教本1により要点をまとめる			講義 70分質疑応答 20分	
10	事例2 JR西日本のトラブル(3)：文化の固定化・逆機能過程に関する課題学習を行う				事前：教本1の熟読 事後：課題学習の自己チェック			講義 45分小テスト 45分	
11	企業文化の変革の過程を説明する				事前：参考文献の読み取り 事後：ノート・参考文献により要点をまとめる			講義 70分質疑応答 20分	
12	事例3 GEの変革(1)：文化の変革過程の経緯を解説する				事前：教本1の読み取り 事後：ノート・教本1により経緯をまとめる			講義 70分質疑応答 20分	
13	事例3 GEの変革(2)：文化の変革過程を解説する				事前：教本1の読み取り 事後：ノート・教本1により要点をまとめる			講義 70分質疑応答 20分	
14	事例3 GEの変革(3)：文化の変革過程に関する課題学習を行う				事前：教本1の熟読 事後：課題学習の自己チェック			講義 45分小テスト 45分	
15	企業文化論のこれから——企業文化論の可能性について述べる				事前：印刷資料の読み取り 事後：ノート・印刷資料により要点をまとめる			講義 70分質疑応答 20分	
教本： 1. 東北大学経営学グループ『ケースに学ぶ経営学（第3版）』有斐閣、¥2,700＋税 2. 印刷資料も用います					参考文献： E. H. シャイン『企業文化』白桃書房、¥3,500＋税				
成績評価の方法、評価基準： 定期試験（100％）で総合評価します。									
学生へのアドバイス： 欠席しないことが大前提です。粘り強い学習努力を期待しています。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	企業文化論Ⅱ（Corporate Culture Ⅱ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	仲 伯 維								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 企業と社会の関係はこの数十年の間に大きく変化しており、企業に期待される役割や責任も変わってきている。持続可能な生産と消費というテーマはSDGsの一つとしても位置づけられている。本授業ではこの時代企業経営に何が求められているのか、国内外の潮流を踏まえて考えていく。									
授業目標： 企業の発展と生き残りに企業文化が不可欠であることを理解することが出来る。 企業を社会との関係から捉える視点を身につける。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎							○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	企業文化の構造					事前：なし 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
2	企業と文化					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
3	企業文化の創生と形成					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
4	企業文化の変容と変革					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
5	企業文化の理念の側面					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
6	経営理念、行動規範の歴史の変遷					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
7	ビジョナリー・カンパニー					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
8	コーポレート・アイデンティティ					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
9	国民文化と異文化コミュニケーション					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
10	企業文化の国際比較					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
11	企業文化の重要性―企業のケース・スタディからの検証					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
12	グローバル企業文化の構築					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
13	企業文化の倫理的側面					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
14	CSRと企業文化					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
15	ESG、SDGs 及び統合報告					事前：前回の配布資料を読む 事後：なし		講義	
教本： 教材は授業時に配布する。					参考文献： 梅澤正『組織文化 経営文化 企業文化』同文館。 村山元英『企業文化論原論』中京大学経営学部。 松村洋平編著『企業文化 経営理念とCSR』学文社。				
成績評価の方法、評価基準： 授業内容への参加状況等(30%)、小テスト(10%)、レポート(60%)等で総合評価する。なお、出席回数が2/3以上に満たない場合は評価の対象としない。									
学生へのアドバイス： よい成績を得るには、日々の予習・復習、毎回の出席、授業中の積極的な発言が必要になる。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 通 年	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	60	授業形態	演 習
授業科目(英文)	基礎ゼミⅠ（Preliminary SeminarⅠ）						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員									
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 初めての大学生活に適応できるように、ポートフォリオによる自己管理をしながら自己肯定感を高め、多様な活動によってコミュニケーション力の向上を図る。 また、「教えてもらう」から「主体的な学び」への転換を図り、基礎学力の向上と具体的な学修スキルを身につけていく。基礎学力としての「読み・書き・プレゼンテーション力」は、実感を伴った学びを重ねて向上をするようにする。									
授業目標： ①大学生活に適応するように、ポートフォリオを活用して、目標管理、人間関係づくりをすすめる。 ②基礎学力（漢字力、語彙力、図書館活用等）の向上と、プレゼンテーション力の向上を図る。 ③大学生としての学修スキル（ノートの取り方、レポートの書き方、パワーポイント作成等）を身につける。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得				思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養		
○				◎					
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	聴解力 ・ガイダンスを聞き基礎ゼミⅠからの4年間を見通す プレゼン力・レジュメを作って自己紹介をする					事前：なし 事後：履修届を提出する		講義・演習	
2	自己決定力 ・履修指導を受けながら時間割表を作成する					事前：担当教員が指示した課題 事後：担当教員が指示した課題		講義・演習	
3	アイデンティティ形成、自己決定力（並行して漢字力の課題） ・ポートフォリオの記入、自己目標と具体的な取り組みを決める					事前：担当教員が指示した課題 事後：清書して提出		講義・演習	
4	コミュニケーション力（並行して漢字力・文章読解の課題） ・ポートフォリオを元に個別面談					事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習		演習	
5	コミュニケーション力（並行して漢字力・文章読解の課題） ・ポートフォリオを元に個別面談					事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習		演習	
6	アイデンティティ形成、コミュニケーション力 ・スポーツ大会の出場種目を相談して決める					事前：担当教員が指示した課題 事後：担当教員が指示した課題		演習	
7	聴解力、集中力、税の話（税務署員の話）					事前：担当教員が指示した課題 事後：感想文を書く		講義	
8	聴解力、要約力、レジュメ力 ・「講義を聞いてノートを取る」 ・ノートの目的、テクニック					事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習		講義・演習	
9	聴解力、要約力、レジュメ力 ・「講義を聞いてノートを取る」 ・実践して、検証する					事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習		演習	
10	図書館活用力、聴解力 ・図書館の利用（大学図書館、厚木図書館 要予約）					事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習		講義・演習	
11	読書力、読解力 ・ビブリオバトルをしよう ・方法を理解し、ワークシート作成					事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習		講義・演習	
12	読書力、プレゼン力（グループワーク） ・ビブリオバトルを実践する					事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習		演習	
13	聴解力、要約力 ・「情報整理」「本を読む」 ・要約のスキル、読書ノートの作成法					事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理		講義・演習	
14	ディスカッション力、思考力 ・提示された文章を要約し、意見をまとめ、グループで討議する					事前：資料や原稿のチェック 事後：振返りをする		演習	
15	アイデンティティ形成（並行して漢字力、文章読解力の課題） ・ポートフォリオに振り返りを記入する。 必要に応じて面談する。					事前：前期を振り返る 事後：ポートフォリオ提出する		演習	

16	アイデンティティ形成（並行して漢字力、文章読解力の課題） ・ポートフォリオに後期目標を記入する。 必要に応じて面談する。	事前：担当教員が指示した課題 事後：担当教員が指示した課題	実習
17	ディスカッション力、主体的・協働的な態度の育成 ・松蔭祭① 出店に関して相談し、見通しをもつ	事前：出店の考えを持つ 事後：担当教員が指示した課題	演習
18	アイデンティティ形成、主体的・協働的な態度の育成 ・松蔭祭② グループ別相談等	事前：準備を進める 事後：準備を進める	実習
19	アイデンティティ形成、主体的・協働的な態度の育成 ・松蔭祭③ 制作等	事前：担当教員が指示した課題 事後：担当教員が指示した課題	実習
20	理解力、レジュメ力、PCスキル ・パワーポイント作成の方法 文字入力、見出し、箇条書き等	事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習	演習
21	プレゼン力、要約力、PCスキル ・パワーポイント作成	事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習	演習
22	聴解力、読解力、要約力 ・「問いを立てる」「レポートを書くとは」構成、原則、引用等	事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習	講義
23	構成力、要約力、情報収集力（教材は、担当教員が選択、工夫） ・小レポート作成① 構成、資料収集	事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習	演習
24	プレゼン力、表現力、PCスキル ・小レポート作成② パワーポイント作成 原稿作成	事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習	演習
25	プレゼン力、表現力、コミュニケーション力 ・小レポート作成③ 発表 感想交流	事前：資料や原稿のチェック 事後：資料作成、構成を考える	演習
26	構成力、文章力、情報収集力 ・個人レポート作成(1) 問いを立てる、アウトライン、資料読み	事前：資料作成、構成を考える 事後：資料作成、構成を考える	演習
27	プレゼン力 ・個人レポート作成(2) レポート文章作成、資料	事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習	演習
28	プレゼン力 ・個人レポート作成(3) 発表 感想交流	事前：担当教員が指示した課題 事後：感想文（振返り）を書く	演習
29	就職力・キャリア指導（キャリアセンター） ・税の話（動画視聴）厚木	事前：進路について考える 事後：感想文（振返り）を書く	講義・演習
30	アイデンティティ形成 ・ポートフォリオに振り返りを記入して提出	事前：ポートフォリオの下書き 事後：なし	演習
教本： ・「アカデミック・スキルズ 大学生のための知的技法入門」 ￥1,000＋税 慶応義塾大学出版会 ・必要な資料を配付します。			
参考文献： 漢字検定問題集（多く出版されています。目標に合わせて用意してください。） その他については授業時に指示します。			
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価します。 授業参加状況等（40%）、小テスト・レポート（60%）等で総合評価します。			
学生へのアドバイス： 大学生活が始まりました。心機一転、新たな気持ちで多くの人と関係を結び、新しい学びに一生懸命に取り組みましょう。基礎ゼミは週に1回ですが、一番多くのメンバーと会える時間ですから休まずに出席すること。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。			

開 講 年 次	2 年 次 通 年	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	60	授業形態	演 習
授業科目(英文)	基礎ゼミⅡ（Preliminary SeminarⅡ）						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員									
履 修 条 件	前提科目	基礎ゼミⅠ							
	そ の 他	なし							
授業概要： ポートフォリオを作成することで、次のステップでの自分をイメージし、自律した大学生活を送りながら自己理解を深める。 学修面では、専門科目への興味・関心を持続しながら専門用語の理解、論理的な考えの展開の仕方等を学び、いっそうの基礎力向上とプレゼンテーション能力を高める。また、3年次に向けて卒業後を見据えたキャリアデザインを考えていく。									
授業目標： ①大学生活の充実を図るように、自己目標を設定、管理して、人間関係を広げたり協働したりして自己理解を深める。 ②基礎学力の向上とともに、学修スキルとして、論理的なレポートの書き方や、専門科目の理解、グループワーク、プレゼンテーション力のいっそうの向上を目指し、主体的に学ぶ。 ③3年次に向けて、職業の選択肢を検討し、具体的な進路登録カードが作成できるようにする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	聴解力 ・基礎ゼミⅡの1年間の見通しをもつ 自己決定力・履修指導を受けながら時間割表を作成する					事前：なし 事後：履修届を提出する		講義・演習	
2	アイデンティティ形成、自己決定力 ・取得できる免許や資格情報を参考に目標を設定する					事前：ポートフォリオ下書き 事後：目標の内容を再考		講義・演習	
3	コミュニケーション力（並行して漢字力の課題） ・ポートフォリオを元に、個別面談する					事前：担当教員が指示した課題 事後：ポートフォリオ提出		講義・演習	
4	聴解力、レジュメ力 ・「情報収集の基礎」の講義 情報に対する態度、文書資料					事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習		講義・演習	
5	聴解力、レジュメ力 ・レポート力・「情報収集の基礎」の講義 資料検索の方法-データベース活用法					事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習		講義・演習	
6	聴解力、レジュメ力 ・「本を読む」の講義 批判的論理的思考（自分の考え＝思考力）					事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習		演習	
7	文章力、思考力 ・「本を読む」の講義 ・クリティカルリーディングとその練習					事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習		実習	
8	就職力、集中力、聴解力					事前：担当教員が指示した課題 事後：情報整理、感想を書く		演習	
9	集中力、読解力 ・「本を読む」【論文】 クリティカルレビューを理解し、論文を読む					事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習		演習	
10	集中力、文章力 ・「本を読む」【論文】 クリティカルレビューを書く					事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習		演習	
11	プレゼン力 ・「本を読む」【論文】 クリティカルレビューを発表する					事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習		演習	
12	思考力、プレゼン力 ・「情報整理」KJ法の講義 KJ法でグループの意見を整理する					事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習		演習	
13	レポート力（PCスキル） ・「情報整理」EXCELの使い方の基本を知る					事前：担当教員が指示した課題 事後：授業の復習		演習	
14	プレゼン力、自主性 プレゼン大会での発表に向けて① ・プレゼンかポスターか テーマについて話し合う					事前：テーマを考える 事後：進め方、方法を考える		演習	
15	アイデンティティ形成（並行して基礎力ワーク） ・ポートフォリオに振り返りを記入・面談					事前：前期を振り返る 事後：ポートフォリオ提出する		演習	

16	アイデンティティ形成、自己決定力（並行して、基礎力ワーク） ・ポートフォリオに後期の目標、具体的な取り組みを記入 ・面談	事前：目標を考える 事後：清書して提出する	講義・演習
17	プレゼン力、主体的・協働的な態度の育成 ・クラス単位で、担当教員の指導による	事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習	演習
18	プレゼン力、主体的・協働的な態度の育成 ・クラス単位で、担当教員の指導による	事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習	演習
19	プレゼン力、主体的・協働的な態度の育成 ・クラス単位で、担当教員の指導による	事前：準備を進める 事後：準備を進める	演習
20	アイデンティティ形成、主体的・協働的な態度の育成 ・松蔭祭（準備）【別に前日準備あり】	事前：準備を進める 事後：準備を進める	実習
21	アイデンティティ形成 主体的・協働的な態度の育成	事前：担当教員が指示した課題 事後：担当教員が指示した課題	実習
22	就職力、聴解力 【キャリアガイダンス】 【ライフキャリアを考える】	事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習	講義・演習
23	就職力 ・漢字検定、資格試験、就職試験等の準備をする	事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習	演習
24	問題発見力 ・テーマ決定 問い 情報・資料収集等 個人テーマのレポート作成①	事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習	演習
25	要約力、読解力 ・アウトライン、資料読みを進める 精読カード等 個人テーマのレポート作成②	事前：資料や原稿のチェック 事後：振り返りをする	演習
26	読解力、文章力 ・レポート作成 個人テーマのレポート作成③	事前：資料や原稿のチェック 事後：振り返りをする	演習
27	プレゼン力、コミュニケーション力 ・グループ代表を選ぶ 代表によるプレゼンテーション 個人テーマのレポート作成④	事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習	演習
28	聴解力、就職力	事前：なし 事後：感想文を書く	講義
29	就職力、アイデンティティ形成 【キャリアガイダンス】 ・進路登録カード作成	事前：進路について考える 事後：担当教員に提出	講義・演習
30	アイデンティティ形成 ・ポートフォリオに振り返りをして提出する	事前：ポートフォリオの記入 事後：なし	演習
教本： ・「アカデミック・スキルズ 大学生のための知的技法入門」 ￥1,000＋税 慶応義塾大学出版会 ・必要な資料を配付します。			
参考文献： 授業時に指示します。			
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価します。 授業参加状況等（40%）、小テスト・レポート（60%）等で総合評価します。			
学生へのアドバイス： 2年次は基礎から専門へのかけ橋になる学年です。自らの目標に向かって学んで行くことを支えます。授業の時間を大切にすること、分からないときや困ったときには自分から行動することが大事になります。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。			

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	キャリアデザイン (Career Design)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	夏目 千恵子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： キャリアデザインとは、自分の職業人生を自らの手で主体的にデザインすることです。この授業では、主体的にデザインできるスキルを身に付けることができるような授業を行います。									
授業目標： (1)キャリア形成の上での転機が存在を知り、立ち止まって振り返り、修正することが可能であることを理解する。(2)自分の意見や考えを他者に伝えることができる。(3)PDCA サイクルに基づいた行動計画を立てることができる。(4)コミュニケーションを図る上で必要なマナーを習得する。以上 4 点を本科目の目標とします。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得				思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養		
○							◎		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション キャリアとは何か					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
2	キャリアデザイン 1 これまでの自分を振り返る					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
3	キャリアデザイン 2 人生における自分の役割					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
4	キャリアデザイン 3 未来の自分（ライフイベント・人生の転機）					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
5	社会を知る 1 社会と自分のキャリアの関連性					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
6	社会を知る 2 働くとは何か					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
7	社会におけるルールのいろいろ					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
8	社会人基礎力について					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
9	好感をもたれる人「第一印象」					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
10	言葉遣い					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
11	コミュニケーション「聴く、話す、話し合う」					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
12	電話応対					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
13	訪問のマナー					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
14	文書作成					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
15	まとめ					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
教本： 稲本恵子・北村伊都子・白井弘子・田中美和・太原靖一郎・和田百子著「キャリアデザイントレーニング～キャリア理論／自己理解／社会人基礎力」（晃洋書房）									
参考文献： なし									
成績評価の方法、評価基準： 定期試験（60％）、レポート（20％）、平常点（20％）。到達目標が達成できたかを評価する。									
学生へのアドバイス： 変化の激しい世の中では自分のキャリアは自分の力で考えて作っていくことが求められます。自分の将来や大学生活を豊かにしていくためにはどうしたら良いか、授業を通じて考えていきましょう。									
オフィスアワー： 月曜日の昼休み									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	教育課程・保育課程論（Curriculum and Early Childhood Education Courses）(子ども)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	野末 晃秀								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 保育の計画の意義と必要性、保育の計画の歴史を理解し、実際の教育課程、保育課程、指導計画を例に取った分析や評価・改善について学ぶ。また、保育の計画の基準となる「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の基本を理解する。保育制度が急激に変化している中、教育課程・保育課程を知ること、新しい保育を考え、組み立てる力を養うとともに、保育の計画全体を把握することで、保育の基本を見直す機会とする。									
授業目標： 教育課程・保育課程の意味、果たす役割をとらえ、教育課程・保育課程の編成の重要性を理解するとともに、子どもたちの姿や地域の実情等を踏まえた教育課程・保育課程の編成の在り方、評価・改善していくためのカリキュラム・マネジメントについて理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション（授業の進め方と評価について） カリキュラムの意味と保育計画					事前：特になし 事後：本授業の復習		講義 90分	
2	幼稚園教育要領、保育所保育指針の理解：カリキュラム・マネジメントとは					事前：指針、要領の講読 事後：本授業の復習		講義 90分	
3	幼稚園・保育所の歴史とカリキュラム（明治期・大正期・昭和期・平成期）					事前：歴史・思想の確認 事後：本授業の復習		講義 90分	
4	認定こども園の歴史・法律・カリキュラム（創設の背景とその役割）					事前：歴史・思想の確認 事後：本授業の復習		講義 90分	
5	幼稚園教育要領・保育所保育指針の歴史的展開					事前：テキストを読む 事後：本授業の復習		講義 90分	
6	絵本を用いた保育実践と教育課程・保育課程					事前：指針、要領の講読 事後：本授業の復習		講義 90分	
7	乳幼児期の子どもの発達と保育の計画					事前：子どもの発達の理解 事後：本授業の復習		講義 90分	
8	指導計画作成に当たっての基本的な考え方					事前：指導計画の理解 事後：本授業の復習		講義 90分	
9	指導計画作成の実際					事前：テキストを読む 事後：本授業の復習		講義 90分	
10	幼稚園・保育所における指導計画の基本的な考え方と留意点					事前：テキストを読む 事後：本授業の復習		講義 90分	
11	生涯学び続ける力の育成と教育課程・保育課程					事前：テキストを読む 事後：本授業の復習		講義 90分	
12	地域社会を生かした保育実践と教育課程・保育課程					事前：地域について知る 事後：本授業の復習		講義 60分、 グループ活動 30分	
13	命を大切にする心を培う保育実践と教育課程・保育課程					事前：道徳について知る 事後：本授業の復習		講義 90分	
14	自然環境を生かした保育実践と教育課程・保育課程					事前：環境について調べる 事後：本授業の復習		講義 90分	
15	教育課程・保育課程の評価と今後の展望					事前：考えをまとめる 事後：特になし		講義 60分、 グループ討議 30分	
教本： 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館(2017年告示) 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館(2017年告示) 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館(2017年告示) 谷田貝公昭・石橋哲成監修『コンパクト版保育者養成シリーズ教育・保育課程論』一藝社(2018年)						参考文献： 文部科学省『指導計画の作成と保育の展開』フレーベル館(2013年)			
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（10%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（70%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 「保育所保育指針」や「幼稚園教育要領」には目を通しておいください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 通年	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	実習
授業科目(英文)	教育実習Ⅰ（幼稚園）（Teaching Practice at KindergartenⅠ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	大沢 裕・野末 晃秀								
履 修 条 件	前提科目	教育実習事前事後指導Ⅰ							
	そ の 他	2 年次末までに修得しなければならない専門科目（卒業必修科目）38単位のうち30単位以上を修得していること。							
授業概要： 幼稚園教諭一種免許状取得のためには、教育実習Ⅰと教育実習Ⅱをそれぞれ3年生と4年生でそれぞれ2週間ずつ履修しなければならない。教育実習Ⅰ（幼稚園）2週間の観察実習及び参加実習等を通して、授業で学んだ幼児の発達や幼児への関わりなどをより具体的な場面で学び、幼稚園教育がどのような目標のもとに実現されていくのかを確認し実際の幼稚園教諭の仕事の仕方にも触れながら将来への希望や期待をもって自己課題を模索していくものとする。									
授業目標： 教育実習Ⅰ（幼稚園）では保育観察・保育参加・部分実習を基本とし、主に以下について学ぶ。 ・幼稚園の役割や機能、一日の流れについて。 ・幼稚園教諭の役割や職務内容の理解。 ・幼児の発達段階に応じた環境や教材について学ぶ。 ・幼児とのかかわりを通して幼児理解の目を養うとともに幼児期にふさわしい保育内容及び指導・援助を学ぶ。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得				思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養		
				○			◎		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1 教育実習の計画…3年次2週間の教育実習計画について知る。 2 事前学習：事前に実習園でのオリエンテーションを受ける…実習園の特徴や保育方法や教育方針について理解する。実習中の行事や予定や生活の流れ事前準備などについて確認する。 3 3歳児とのかかわり…①遊びに参加することで3歳児の遊びの楽しさはどこになるのか、それを通した学びとはどのようなものであるのかを考察する。 担任の動きや援助の実際を学ぶ。 ②3歳児の興味にあった手遊びや絵本や紙芝居の読み聞かせなどをする。反省評価をする。 4 4歳児とのかかわり…①4歳児クラスで幼児と関わり遊びに加わり参加することで4歳児の遊びの楽しさを感じ取る。 また、担任の動きや援助の実際を学ぶ。 ②4歳児にふさわしい、手遊びや絵本や紙芝居の読み聞かせなどをする。反省評価をする。 5 5歳児とのかかわり…①5歳児クラスで幼児と関わり遊びに加わり参加することで5歳児の遊びの楽しさを感じ取るとともに担任の動きや援助の実際を学ぶ。また、「修了までに育ってほしい10の姿」を実際の遊びの中から考察する。 ②5歳児にふさわしい、手遊びや絵本や紙芝居の読み聞かせなどをする。反省評価をする。 6 部分指導案の作成…部分指導案を作成し、実習園からの指導を受け、部分実習に向けた準備を行う。 7 部分実習Ⅰ…指導案に沿って実際の保育を展開する、反省評価をする、実習園からの指導を受ける。 8 部分実習Ⅱ…改善した新たな指導案の下、新たな部分実習を行う。反省評価をする、実習園からの指導を受ける。 9 2週間の振り返り…教育実習Ⅰ全体について実習園の担当教員より指導を受け、自ら振り返り、今後の課題を明確にする。 ※事前事後指導については教育実習事前事後指導Ⅰの授業で行う。									
教本： 久富陽子編、2008『実習に行くまえに知っておきたい保育実技 児童文化財の魅力とその活用・展開』萌文書林（ISBN：4893470760） 相馬和子・中田カヨ子編、2018『幼稚園・保育所実習－実習日誌の書き方』萌文書林（ISBN：4893470817） 参考文献： 「幼稚園教育要領解説」 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説」									
成績評価の方法、評価基準： 実習園からの評価（60%）、実習日誌による評価（40%）（実習日誌に部分指導案を添付することを評価の条件とする）。									
学生へのアドバイス： ・1年次から学んできた幼稚園教育の目標や幼児期の子どもの発達、指導計画の作成などについて復習しておく。 ・紙芝居、絵本手遊びなど授業で体験してきたことをもとにパネルシアターやペープサートなどの教材を事前にいくつか作成しておく。 ・ピアノなど保育技術を磨き、オリエンテーションで示された曲が弾けるように事前に練習し実習に臨む。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。 実習前に必ず面接し、準備したことが確認できるよう、オフィスアワーの活用を呼び掛ける。									

開 講 年 次	4 年 次 通 年	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	実 習
授 業 科 目 (英 文)	教 育 実 習 Ⅱ（幼稚園）（Teaching Practice at Kindergarten Ⅱ）						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	大 沢 裕・野 末 晃 秀								
履 修 条 件	前提科目	教 育 実 習 事 前 事 後 指 導 Ⅱ							
	そ の 他	教 育 実 習（幼稚園）Ⅰ							
授業概要： 幼稚園教諭一種免許状取得のためには、教育実習Ⅰと教育実習Ⅱをそれぞれ3年生と4年生でそれぞれ2週間ずつ履修しなければならない。教育実習Ⅱ（幼稚園）2週間の観察実習及び参加実習等を通して、授業で学んだ幼児の発達や幼児への関わりなどをより具体的な場面で学び、幼稚園教育がどのような目標のもとに実現されていくのかを確認し実際の幼稚園教諭の仕事の仕方にも触れながら将来への希望や期待をもって自己課題を模索していくものとする。									
授業目標： 教育実習Ⅱ（幼稚園）では保育観察・保育参加・部分実習を基本とし、主に以下について学ぶ。 ・幼稚園の役割や機能、一日の流れについて。 ・幼稚園教諭の役割や職務内容の理解。 ・幼児の発達段階に応じた環境や教材について学ぶ。 ・幼児とのかかわりを通して幼児理解の目を養うとともに幼児期にふさわしい保育内容及び指導・援助を学ぶ。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得				思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養		
				○			◎		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画（詳細に記入）					事 前 ・ 事 後 学 習（学習課題）		授 業 形 態	
1 教育実習の計画…4年次2週間の教育実習計画について知る。 2 事前学習：事前に実習園でのオリエンテーションを受ける…実習園の特徴や保育方法や教育方針について理解する。実習中の行事や予定や生活の流れ事前準備などについて確認する。 3 3歳児とのかかわり…①遊びに参加することで3歳児の遊びの楽しさはどこになるのか、それを通した学びとはどのようなものであるのかを考察する。担任の動きや援助の実践を学ぶ。 ②3歳児の興味にあった手遊びや絵本や紙芝居の読み聞かせなどをする。反省評価をする。 4 4歳児とのかかわり…①4歳児クラスで幼児と関わり遊びに加わり参加することで4歳児の遊びの楽しさを感じ取る。 また、担任の動きや援助意図やねらいを読み取り実習生として子どもへ積極的ににかかわる。 ②4歳児にふさわしい、手遊びや絵本や紙芝居の読み聞かせなどをする。反省評価をする。 5 5歳児とのかかわり…①5歳児クラスで幼児の遊びに加わり参加することで5歳児の遊びの楽しさを感じ取るとともに担任の動きや援助の実践を学ぶ。また、「修了までに育ってほしい10の姿」を実際の遊びの中から考察する。 ②5歳児にふさわしい、手遊びや絵本や紙芝居の読み聞かせなどをする。反省評価をする。 6 部分指導案の作成…部分指導案を作成し、実習園からの指導を受け、一斉活動の部分実習に向けた準備を行う。 7 部分実習…指導案に沿って実際の保育を展開する、反省評価をする、実習園からの指導を受ける。 8 一日実習…責任実習とも言う。登園から降園までの一日の流れを考え、ねらい、内容を幼児の実態に即して立て、一日実習の指導案を作成する。事前に、担任の指導を受け実践する。（一斉活動の内容など楽しいものを考える） 9 2週間の振り返り…教育実習Ⅱ全体について実習園の担当教員より指導を受け、自ら振り返り今後の課題を明確にする。									
※事前事後指導については教育実習事前事後指導Ⅱの授業で行う。									
教本： 相馬和子・中田カヨ子編、2018『幼稚園・保育所実習－実習日記の書き方』萌文書林（ISBN：4893470817） 久富陽子編、2008『実習に行くまえに知っておきたい保育実技－児童文化財の魅力とその活用・展開－』萌文書林（ISBN：4893470760）						参考文献： 「幼稚園教育要領解説」 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説」			
成績評価の方法、評価基準： 実習園からの評価（60%）、実習日誌による評価（40%）（実習日誌に一日指導案を添付することを評価の条件とする）。									
学生へのアドバイス： ・1年次から学んできた幼稚園教育の目標や幼児期の子どもの発達、指導計画の作成などについて復習しておく。 ・紙芝居、絵本手遊びなど授業で体験してきたことをもとにパネルシアターやペープサートなどの教材を事前にいくつか作成しておく。 ・ピアノなど保育技術を磨き、オリエンテーションで示された曲が弾けるように事前に練習し実習に臨む。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。 実習前に必ず面接し、準備したことが確認できるよう、オフィスアワーの活用を呼び掛ける。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	授業・演習
授業科目(英文)	教育実習事前事後指導Ⅰ（幼稚園）(Pre- & Post-Guidance on Teaching PracticeⅠ (Kindergarten))							科目分類	専門科目
担 当 教 員	大沢 裕・野末 晃秀								
履 修 条 件	前提科目	2 年次までに修得しなければならない専門科目（卒業必修科目）38単位のうち30単位以上を修得していること。							
	そ の 他	なし							
授業概要： 教育実習の意義や目的について理解し、幼稚園における実習生として自分がどのように学んでいくか、明確な課題をもって取り組めるように意識を高めていく。 指導計画から指導案までの仕組みを理解するとともに、実習ノートの書き方について理解するようになる。さらに、幼児の発達段階に応じた指導内容を理解し、ふさわしいねらいを立てて指導案を作成することができるよう部分指導案の作成の仕方を学ぶ。 作成した指導案をもとに保育の展開、環境構成がふさわしいか模擬保育を通して振り返り改善していく。また、幼児の気持ちの理解や担任としての言葉使いなど保育に必要な基礎的技術を学び、実習への意欲付けをしていく。 実習後の振り返りを通して自己課題を見出し、次の実習に向けての準備をどのようにしていくか考える機会を持つ。お礼状の書き方など具体的に学び、実習後の実習生としての姿勢やあり方を確認していく。									
授業目標： 幼児理解に基づき、幼稚園において教育実習生として保育観察、参加を経て部分実習を行うために必要な実践的指導力を身につける。日々教育活動が展開されている園において教員としての自覚と幼児への愛情をもって関わることのできる基礎を身につけていく。教育実習の学びを通して教育者としての資質・能力や適性を自覚し、振り返りを通して自己課題を見出しさらなる実践力を高めるための意欲を持つようになる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○						◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション、教育実習Ⅰの意義と目的・内容について学ぶ。 幼稚園の一日の流れ					事前：教育実習の手引きを読んでおく 事後：一日の流れのプリントを仕上げ次回提出		講義	
2	指導案の作成（1）ねらいと内容、保育の展開、環境の構成など書き方の基本を学ぶ。 「朝の受け入れ」の部分指導案を作成する					事前：一日の流れを復習しておく 事後：(1)指導案を仕上げ次回提出		講義・演習	
3	指導案の作成（2）降園時の活動の指導案を作成する。 ピアノ弾き歌い・手遊び実技①②（2人ずつ新しい曲にチャレンジ（皆の前で演じる））					事前：手遊び実技の担当者は練習しておく 事後：(2)指導案を仕上げ次回提出		講義・演習	
4	指導案の作成（3）紙芝居、絵本の読み聞かせの部分指導案を作成する。 ピアノ弾き歌い・手遊び③④					事前：手遊び実技の担当者は練習しておく 事後：(3)指導案を仕上げ次回提出		講義・演習	
5	指導案の作成（4）歌の指導、ゲームなど部分指導についての部分指導案を作成する。 ピアノ弾き歌い・手遊び⑤⑥					事前：実技の担当者は練習しておく 事後：指導案(4)-1、2を仕上げ次回提出		講義・演習	
6	模擬保育（1）指導案をもとに担任役と園児役になって保育の場面のロールプレイをする。ピアノ弾き歌い・手遊び⑦⑧					事前：指導案を事前に作成し人数分印刷しておく 事後：直したものを次回提出		演習	
7	模擬保育（2）指導案をもとに担任役と園児役になって保育の場面のロールプレイをする。ピアノ弾き歌い・手遊び⑨⑩					事前：指導案を事前に作成し人数分印刷しておく 事後：直したものを次回提出		演習	
8	模擬保育（3）指導案をもとに担任役と園児役になって保育の場面のロールプレイをする。ピアノ弾き歌い・手遊び⑪⑫					事前：指導案を事前に作成し人数分印刷しておく 事後：直したものを次回提出		演習	
9	模擬保育（4）ロールプレイから振り返り、保育に必要な基本的技能や言葉使いについて学ぶ。ピアノ弾き歌い・手遊び⑬⑭					事前：指導案を事前に作成し人数分印刷しておく 事後：直したものを次回提出		演習	
10	個人調書の書き方・幼稚園教育実習の個人目標の設定 実習日誌の書き方・保育記録・実習生の気づきなど実習日記の具体的記入の仕方を学ぶ。絵本・紙芝居の実演①②③④					事前：実習の手引きを持参する 事後：教科書と手引きと日誌を照らしあわせる		講義・演習	
11	一日の振り返り・実習全体の反省・お礼状の書き方などについて学ぶ 絵本・紙芝居の実演⑤⑥⑦					事前：実技の準備をしておく 事後：実技を振り返り改善する		講義・演習	
12	絵本・紙芝居の実演⑧⑨⑩					事前：実技の練習に向き合う 事後：実技を振り返り改善する		演習	
13	実習の手引きを熟読し身だしなみの確認 実習準備にあたる教材の作成・指導案の作成					事前：教材を作成して持参する 事後：指導案を作成して持参する		講義	
14	実習後の評価表に基付き個別の振り返りをして次回の実習へ課題をもてるようにする。 実習日誌の提出、個別面談（1）					事前： 事後：実習後の反省		教員との面談	
15	実習後の評価表に基付き個別の振り返りをして次回の実習へ課題をもてるようにする。 個別面談（2）					事前： 事後：実習後の反省		教員との面談	
教本： 「幼稚園教育実習の手引き」松蔭大学作成 相馬和子・中田カヨ子編、2018『幼稚園・保育所実習－実習日記の書き方』萌文書林 (ISBN : 4893470817) 久富陽子編、2008『実習に行くまえに知っておきたい保育実技－児童文化財の魅力とその活用・展開－』萌文書林 (ISBN : 4893470760)					参考文献： 「幼稚園教育要領解説」 【幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説】				
成績評価の方法、評価基準：平常の授業参加状況等（20%）、実技・模擬保育等（40%）、指導案作成・提出物（40%）等で総合評価する。（尚、全授業出席しない場合には実習に参加できないこととする）									
学生へのアドバイス： 教育実習生として事前に身につける必要な指導案の作成ができているか、実際のロールプレイを通して実践的な力を身につけたか、実際の教材を作成しているか確認していく。 教育実習に向けて具体的な自己課題を持って実習に臨むことができたか、実習後の振り返りと園からの評価票に基づき個別面談を通して実習の成果を確認する。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。指導案作成など具体的な内容について個別指導できるようオフィスアワーを設けている。活用して十分な準備ができるようにする。									

開 講 年 次	4 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	授業・演習
授業科目(英文)	教育実習事前事後指導Ⅱ（幼稚園）（Pre- & Post-Guidance on Teaching Practice Ⅱ (Kindergarten)）							科目分類	専門科目
担 当 教 員	大沢 裕・野末 晃秀								
履 修 条 件	前提科目	教育実習事前事後指導Ⅰ（幼稚園）及び教育実習Ⅰ（幼稚園）を修得していること。							
	そ の 他	なし							
授業概要： 教育実習の意義や目的について理解し、幼稚園における実習生として自分がどのように学んでいくか、明確な課題をもって取り組めるように意識を高めていく。 指導計画から指導案までの仕組みを理解するとともに、実習ノートの書き方について理解ようになる。さらに、幼児の発達段階に応じた指導内容を理解し、ふさわしいねらいを立てて指導案を作成することができるよう部分指導案の作成の仕方を学ぶ。 作成した指導案をもとに保育の展開、環境構成がふさわしいか模擬保育を通して振り返り改善していく。また、幼児の気持ちの理解や担任としての言葉使いなど保育に必要な基礎的技術を学び、実習への意欲付けをしていく。 実習後の振り返りを通して自己課題を見出し、自分の課題を克服し、就職へ向けての意欲につなげる。お礼状の書き方など具体的に学び、実習後の実習生としての姿勢やあり方を確認していく。									
授業目標： 幼児理解に基づき、幼稚園において教育実習生として保育観察、参加を経て部分実習を行うために必要な実践的指導力を身につける。日々教育活動が展開されている園において教員としての自覚と幼児への愛情をもって関わることのできる基礎を身につけていく。教育実習の学びを通して教育者としての資質・能力や適性を自覚し、振り返りを通して自己課題を見出しさらなる実践力を高めるための意欲を持つようになる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得				思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養		
○							◎		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション、教育実習Ⅱの意義と目的・内容について学ぶ。 幼稚園の一日の流れ					事前：教育実習の手引きを読んでおく 事後：一日の流れのプリントを仕上げ次回提出		講義	
2	指導案の作成（1）ねらいと内容、保育の展開、環境の構成など。 自分で実習中に行う活動計画を立てる。					事前：一日の流れを復習しておく 事後：（1）指導案を仕上げ次回提出		講義・演習	
3	指導案の作成（2）自分で実習中に行う部分実習に関する活動の指導案を作成する。 ピアノ弾き歌い・手遊び実技①②（2人ずつ新しい曲にチャレンジ（皆の前で演じる））					事前：手遊び実技の担当者は練習しておく 事後：（2）指導案を仕上げ次回提出		講義・演習	
4	指導案の作成（3）紙芝居、絵本の読み聞かせの部分指導案を作成する。 ピアノ弾き歌い・手遊び③④					事前：手遊び実技の担当者は練習しておく 事後：（3）指導案を仕上げ次回提出		講義・演習	
5	指導案の作成（4）歌の指導、ゲームなど部分指導についての部分指導案を作成する。 ピアノ弾き歌い・手遊び⑤⑥					事前：実技の担当者は練習しておく 事後：指導案（4）-1、2を仕上げ次回提出		講義・演習	
6	模擬保育（1）指導案をもとに担任役と園児役になって保育の場面のロールプレイをする。ピアノ弾き歌い・手遊び⑦⑧（ふれあいあそびなど）					事前：指導案を事前に作成し人数分印刷しておく 事後：直したものを次回提出		演習	
7	模擬保育（2）指導案をもとに担任役と園児役になって保育の場面のロールプレイをする。ピアノ弾き歌い・手遊び⑨⑩（一斉活動・作って遊ぶ）					事前：指導案を事前に作成し人数分印刷しておく 事後：直したものを次回提出		演習	
8	模擬保育（3）指導案をもとに担任役と園児役になって保育の場面のロールプレイをする。ピアノ弾き歌い・手遊び⑪⑫（一斉活動・ゲームなど）					事前：指導案を事前に作成し人数分印刷しておく 事後：直したものを次回提出		演習	
9	模擬保育（4）ロールプレイから振り返り、保育に必要な基本的技能や言葉使いについて学ぶ。ピアノ弾き歌い・手遊び⑬⑭（一日指導案を作成する）					事前：指導案を事前に作成し人数分印刷しておく 事後：直したものを次回提出		演習	
10	個人調書の書き方・幼稚園教育実習の個人目標の設定 実習日誌の書き方・保育記録・実習生の気づきなど書き方の再確認をする。保育の中での声かけなど出し合う。絵本・紙芝居の実演①②③④					事前：実習の手引きを持参する 事後：教科書と手引きと日誌を照らしあわせる		講義・演習	
11	一日の振り返り・実習全体の反省・お礼状の書き方などについて再確認をする。 絵本・紙芝居の実演⑤⑥⑦					事前：実技の準備をしておく 事後：実技を振り返り改善する		講義・演習	
12	絵本・紙芝居の実演⑧⑨⑩（3、4、5歳児・季節にふさわしいものを選ぶ）					事前：実技の練習に向き合う 事後：実技を振り返り改善する		演習	
13	実習の手引きを熟読し身だしなみの確認 実習準備にあたる教材の作成・指導案の作成（3、4、5歳児にふさわしいものを作る）					事前：教材を作成して持参する 事後：指導案を作成して持参する		講義	
14	実習後の評価表に基づき個別の振り返りをして自己課題をもち課題にする。 実習日誌の提出、個別面談（1）					事前： 事後：実習後の反省		教員との面談	
15	実習後の評価表に基づき個別の振り返りをして自己課題をもち克服する気持ちを高め ていく。個別面談（2）					事前： 事後：実習後の反省		教員との面談	
教本： 「幼稚園教育実習の手引き」松蔭大学作成 相馬和子・中田カヨ子編、2018『幼稚園・保育所実習－実習日記の書き方』萌文書林（ISBN：4893470817） 久富陽子編、2008『実習に行くまえに知っておきたい保育実技－児童文化財の魅力とその活用・展開－』萌文書林（ISBN：4893470760）					参考文献： 「幼稚園教育要領解説」 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」				
成績評価の方法、評価基準：平常の授業参加状況等（20%）、実技・模擬保育等（40%）、指導案作成・提出物（40%）等で総合評価する。（尚、全授業出席しない場合には実習に参加できないこととする）									
学生へのアドバイス： 教育実習生として事前に身につける必要な指導案の作成ができているか、実際のロールプレイを通して実践的な力を身につけたか、実際の教材を作成しているか確認していく。 教育実習に向けて具体的な自己課題を持って実習に臨むことができたか、実習後の振り返りと園からの評価票に基づき個別面談を通して実習の成果を確認する。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。指導案作成など具体的な内容について個別指導できるようオフィスアワーを設けている。活用して十分な準備ができるようにする									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	教育心理 (Educational Psychology)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	田村 修一								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 幼児、児童及び生徒の心身の発達および学習の過程について、心理学的なメカニズムを学ぶことにより、将来、教職に携わる者として必要な発達と学習の支援のあり方について考える。									
授業目標： 1. 幼児、児童および生徒の心身の発達および学習の過程を理解できる。 2. 各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解できる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得				思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養		
◎				○					
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション（授業の進め方、評価方法の説明） 発達とは何か（成熟と学習の違いについて考える）					事前：シラバスに目を通す 事後：授業の振り返りの記入		講義 90 分	
2	発達段階と発達課題（エリクソンの生涯発達論）					事前：なし 事後：授業の振り返りの記入		講義 90 分	
3	運動と言語の発達					事前：なし 事後：授業の振り返りの記入		講義 90 分	
4	認知の発達（ピアジェの認知発達論）					事前：なし 事後：授業の振り返りの記入		講義 90 分	
5	社会性の発達（ボウルヴィの愛着理論）					事前：なし 事後：授業の振り返りの記入		講義 90 分	
6	思春期・青年期の発達（アイデンティティの確立）					事前：なし 事後：授業の振り返りの記入		講義 90 分	
7	学習の理論（条件づけと観察学習）					事前：なし 事後：授業の振り返りの記入		講義 90 分	
8	認知と学習（記憶のメカニズム）					事前：なし 事後：授業の振り返りの記入		講義 45 分・演習 45 分	
9	学習形態と指導					事前：なし 事後：授業の振り返りの記入		講義 90 分	
10	動機づけ					事前：なし 事後：授業の振り返りの記入		講義 90 分	
11	学級のアセスメントと集団づくり（Q-U の理解と活用）					事前：なし 事後：授業の振り返りの記入		講義 90 分	
12	学習の評価					事前：なし 事後：授業の振り返りの記入		講義 90 分	
13	発達と教育（これからの教育に必要なことについて考える）					事前：なし 事後：授業の振り返りの記入		講義 60 分・演習 30 分	
14	発達障害（LD、ADHD、自閉症スペクトラム）の理解					事前：なし 事後：授業の振り返りの記入		講義 90 分	
15	発達障害（LD、ADHD、自閉症スペクトラム）の支援					事前：なし 事後：授業の振り返りの記入		講義 90 分	
教本： 「学習と発達」内藤佳津雄・北村世都・鏡直子 弘文堂 2020 年									
参考文献： 「よくわかる学校心理学」水野治久・石隈利紀・田村節子・田村修一・飯田順子 ミネルヴァ書房 2013 年									
成績評価の方法、評価基準： 平常点（リアクションペーパー・振り返りレポート）（40％）と定期試験（60％）の総合評価。									
学生へのアドバイス： 「教育現場では、大学の教職課程の学びは役に立たない」と言われますが、そんなことはありません、しっかり学びましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	行政法Ⅰ（Administrative LawⅠ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	柳 裕 治								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 私たちは、日常生活・仕事において、さまざまな場面で「行政」と関わりを持っています。この行政に関する様々な法律を総称して行政法といいます。この様々な法律は共通する原理原則により構築され、運営されています。本講義では、行政法の諸概念・原理原則の基礎的知識修得のため、下記の内容について行政判例研究を交えて体系的に説明していく。また、行政に関する時事問題にも触れ、行政に関する幅広い知識を修得する。									
授業目標： 行政法の基礎的知識・行政法的思考の修得									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス（行政法Ⅰ学修の概要）					事前：シラバスの確認 事後：講義内容の復習		講義	
2	行政法学修の実益					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
3	行政法の基本構造					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
4	法律による行政の原理					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
5	行政法の一般原則					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
6	法行政上の法律関係					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
7	行政組織法					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
8	行政基準					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
9	行政行為					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
10	行政裁量					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
11	行政契約					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
12	行政指導					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
13	行政計画					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
14	行政調査					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
15	総括（終了テスト・解説）					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
教本：参考文献： 櫻井恵子・橋本博之『行政法（第6版）』弘文堂（2019年8月）適宜指定 行政法ⅠⅡは同じテキスト使用									
成績評価の方法、評価基準： 小テスト・授業参加状況等（20％）、終了テスト（80％）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 行政法ⅠⅡをセットで履修することが望ましい。新聞等で取り上げられている行政に関する記事に興味を持ち、調べるようにしてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	行政法Ⅱ（Administrative Law Ⅱ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	柳 裕治								
履 修 条 件	前提科目	なし（行政法Ⅰの単位取得が望ましい）							
	そ の 他	なし							
授業概要： 私たちは、日常生活・仕事において、さまざまな場面で「行政」と関わりを持っています。この行政に関する様々な法律を総称して行政法といいます。このような法律は共通する原理原則により構築され、運営されています。本講義では、行政法の諸概念・原理原則の基礎的知識修得のため、下記の内容について行政判例研究を交えて体系的に説明していく。また、行政に関する時事問題にも触れ、行政に関する幅広い知識を修得する。									
授業目標： 行政法の基礎知識・行政法的思考の修得									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス（行政法Ⅱ学修の概要）					事前：シラバスの確認 事後：講義内容の復習		講義	
2	行政上の義務履行確保					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
3	行政罰					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
4	行政手続					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
5	情報公開・個人情報保護					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
6	行政上の救済手続					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
7	行政事件訴訟法概観					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
8	取消訴訟(1)訴訟要件					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
9	取消訴訟(2)審理・判決・執行停止・教示					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
10	取消訴訟以外の抗告訴訟					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
11	当事者訴訟・争点訴訟					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
12	国家賠償・損失補償					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
13	警察法・公物法					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
14	租税法・環境法					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
15	総括（終了テスト・解説）					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
教本： 櫻井恵子・橋本博之『行政法（第6版）』弘文堂（2019年8月） 行政法ⅠⅡは同じテキスト使用					参考文献： 適宜指定				
成績評価の方法、評価基準： 小テスト・授業参加状況等（20％）、終了テスト（80％）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 行政法ⅠⅡをセットで履修することが望ましい。新聞等で取り上げられている行政に関する記事に興味を持ち、調べるようにしてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	近代文学（散文）（Modern Japanese Literature (Prose)）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	横手 拓治								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 日本の近代小説は、短い期間にさまざまな展開を見せてきた。本講では、著名な作品の本文を紹介しつつ開化期から村上春樹までをコンパクトにまとめた安藤宏『日本近代小説史』をテキストに、近代小説の全像理解へと導いていく。双方向性を適宜導入する。									
授業目標： ＊「言葉で世界をつくること」である小説に登場した、日本語におけるさまざまな表現を味わうことで、文章についての可能性を理解する。 ＊日本の小説の発展史を学ぶことで、対外的に日本的なものについて発信する能力の一端を養う。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンスおよび『日本近代小説』の「序」「Ⅰ 文明開化と『文学』の変容」1～3を扱う。＊講義と読解のほか関連データの紹介等も適宜実施する。リアクションペーパー提出適宜。					事前：テキスト範囲を読む 事後：復習、関連作品を読む		講義45分、作品鑑賞と読解30分、応答15分	
2	『日本近代小説』『Ⅰ 文明開化と『文学』の変容』4、および「Ⅱ 明治中期の小説文体」1～3を扱う。＊同。					事前：テキスト範囲を読む 事後：復習、関連作品を読む		講義45分、作品鑑賞と読解30分、応答15分	
3	『日本近代小説』『Ⅱ 明治中期の小説文体』4を扱う。＊同。					事前：テキスト範囲を読む 事後：復習、関連作品を読む		講義45分、作品鑑賞と読解30分、応答15分	
4	『日本近代小説』『Ⅲ 自然主義文学と漱石・鷗外』のうち1～3を扱う。＊同。					事前：テキスト範囲を読む 事後：復習、関連作品を読む		講義45分、作品鑑賞と読解30分、応答15分	
5	『日本近代小説』『Ⅲ 自然主義文学と漱石・鷗外』のうち4を扱う。＊同。					事前：テキスト範囲を読む 事後：復習、関連作品を読む		講義45分、作品鑑賞と読解30分、応答15分	
6	『日本近代小説』『Ⅳ 大正文壇の成立』のうち1と2を扱う。＊同。					事前：テキスト範囲を読む 事後：復習、関連作品を読む		講義45分、作品鑑賞と読解30分、応答15分	
7	『日本近代小説』『Ⅳ 大正文壇の成立』のうち3、および「Ⅴ マルキシズムとモダニズム」のうち1と2を扱う。＊同。					事前：テキスト範囲を読む 事後：復習、関連作品を読む		講義45分、作品鑑賞と読解30分、応答15分	
8	『日本近代小説』『Ⅴ マルキシズムとモダニズム』のうち3と4を扱う。＊同。					事前：テキスト範囲を読む 事後：復習、関連作品を読む		講義45分、作品鑑賞と読解30分、応答15分	
9	『日本近代小説』『Ⅵ 第二次世界大戦と文学』1を扱う。＊同。					事前：テキスト範囲を読む 事後：復習、関連作品を読む		講義45分、作品鑑賞と読解30分、応答15分	
10	『日本近代小説』『Ⅵ 第二次世界大戦と文学』2～4を扱う。＊同。					事前：テキスト範囲を読む 事後：復習、関連作品を読む		講義45分、作品鑑賞と読解30分、応答15分	
11	『日本近代小説』『Ⅶ 戦後文学の展開』1～3を扱う。＊同。					事前：テキスト範囲を読む 事後：復習、関連作品を読む		講義45分、作品鑑賞と読解30分、応答15分	
12	『日本近代小説』『Ⅶ 戦後文学の展開』4と5を扱う。＊同。					事前：テキスト範囲を読む 事後：復習、関連作品を読む		講義45分、作品鑑賞と読解30分、応答15分	
13	『日本近代小説』『Ⅷ 高度経済成長期とポストモダン』1と2を扱う。＊同。					事前：テキスト範囲を読む 事後：復習、関連作品を読む		講義45分、作品鑑賞と読解30分、応答15分	
14	『日本近代小説』『Ⅷ 高度経済成長期とポストモダン』3～6を扱う。＊同。					事前：テキスト範囲を読む 事後：復習、関連作品を読む		講義45分、作品鑑賞と読解30分、応答15分	
15	『日本近代小説』『Ⅷ 高度経済成長期とポストモダン』7～9を扱い、まとめの講義とともに、授業内最終試験を実施。＊同。					事前：テキスト範囲を読む 事後：全体の復習		講義30分、作品鑑賞と読解15分、試験45分	
教本：参考文献： 『日本近代小説史』（安藤宏、中央公論新社）＊教員は本書の担当編集者であり、作品については授業時に紹介する。 制作に関わってきた。									
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（40%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 取りあげる作家については、図書館やwebで知識を増やし、作品をよく読んでおくこと。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	近代文学（韻文）（Modern Japanese Literature (Verse)）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	白石 佳和								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 近代詩（短歌・俳句）の代表的作品を精読しつつ、作品や作者の分析方法を学ぶ。また、複数の作品・作者の分析を通じて近代詩歌の歴史を大まかに把握する。									
授業目標： 1. 近代詩（短歌・俳句）の読み方を習得し自分の意見が表現できる。 2. 近代詩（短歌・俳句）の歴史を大まかにとらえる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーションとして近代詩の成立について学ぶ。					事前：近代詩について調べる 事後：振り返りとまとめ		講義40分、ディスカッション30分、発表20分	
2	島崎藤村の詩の作品分析や作者の背景、時代状況について検討を行う。					事前：課題の下調べ 事後：振り返りとまとめ		講義40分、ディスカッション30分、発表20分	
3	上田敏『海潮音』の作品分析や作者の背景、時代状況について検討を行う。					事前：課題の下調べ 事後：振り返りとまとめ		講義40分、ディスカッション30分、発表20分	
4	萩原朔太郎の詩の作品分析や作者の背景、時代状況について検討を行う。					事前：課題の下調べ 事後：振り返りとまとめ		講義40分、ディスカッション30分、発表20分	
5	高村光太郎の詩の作品分析や作者の背景、時代状況について検討を行う。					事前：課題の下調べ 事後：振り返りとまとめ		講義40分、ディスカッション30分、発表20分	
6	西脇順三郎の詩の作品分析や作者の背景、時代状況について検討を行う。					事前：課題の下調べ 事後：振り返りとまとめ		講義40分、ディスカッション30分、発表20分	
7	「戦争と詩」というテーマについて具体的な作品を読みながら検討を行う。					事前：課題の下調べ 事後：振り返りとまとめ		講義40分、ディスカッション30分、発表20分	
8	石川啄木の短歌作品の分析や作者の背景、時代状況について検討を行う。					事前：課題の下調べ 事後：振り返りとまとめ		講義40分、ディスカッション30分、発表20分	
9	与謝野晶子の短歌作品の分析や作者の背景、時代状況について検討を行う。					事前：課題の下調べ 事後：振り返りとまとめ		講義40分、ディスカッション30分、発表20分	
10	斎藤茂吉の短歌作品の分析や作者の背景、時代状況について検討を行う。					事前：課題の下調べ 事後：振り返りとまとめ		講義40分、ディスカッション30分、発表20分	
11	「戦争と短歌」というテーマについて具体的な作品を読みながら検討を行う。					事前：課題の下調べ 事後：振り返りとまとめ		講義40分、ディスカッション30分、発表20分	
12	高浜虚子の俳句作品の分析や作者の背景、時代状況について検討を行う。					事前：課題の下調べ 事後：振り返りとまとめ		講義40分、ディスカッション30分、発表20分	
13	河東碧梧桐の俳句作品の分析や作者の背景、時代状況について検討を行う。					事前：課題の下調べ 事後：振り返りとまとめ		講義40分、ディスカッション30分、発表20分	
14	水原秋桜子の俳句作品の分析や作者の背景、時代状況について検討を行う。					事前：課題の下調べ 事後：振り返りとまとめ		講義40分、ディスカッション30分、発表20分	
15	「戦争と俳句」というテーマについて具体的な作品を読みながら検討を行う。					事前：課題の下調べ 事後：振り返りとまとめ		講義40分、ディスカッション30分、発表20分	
教本： プリントを配布する。					参考文献： 授業で紹介する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（20％）、レポート（50％）、期末試験（30％）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： さまざまな詩歌を読み、自分のことばの世界を広げましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	金融概論 (Introduction to Finance)						科目分類	専 門 科 目	
担 当 教 員	宮 崎 隆								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 金融論の入門編です。金融論は近年「貨幣的経済学」や「ファイナンス」、「貨幣論」などと呼ぶこともあります。何れも個人の金融や銀行のしくみと役割、国の金融政策を含みます。本講座はさらに国際金融やバーチャル・マネー(仮想通貨)、クレジット(消費者信用)にもふれます。									
授業目標： マネーに関する知識の習得。PBL(課題解決型学習)を入れることもあります。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス：金融論の意味と範囲 (1)貨幣とは何か (2)身の回りの金融の問題					事前：なし 事後：用語表を作成(継続)		講義(60分；PBL含む) 小レポート(30分)	
2	家計と金融1： (1)家計の資産と負債 (2)収入と支出、貯蓄について (3)統計					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義(60分；PBL含む) 小レポート(30分)	
3	家計と金融2： (1)家計の金融資産(中・長期) (2)預貯金の種類と特徴、金融指標の見方					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義(60分；PBL含む) 小レポート(30分)	
4	家計と金融3： (1)クレジット(消費者信用)とは (2)クレジットカード (3)キャッシング 他					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義(60分；PBL含む) 小レポート(30分)	
5	国際金融論：(1)為替レートとは何か (2)為替レートはなぜ変動するか (3)円高と円安 (4)リスク・ヘッジ 他					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義(60分；PBL含む) 小レポート(30分)	
6	銀行論1： (1)わが国の銀行の分類と役割 (2)バンキングとは何か (3)金融統計					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義(60分；PBL含む) 小レポート(30分)	
7	銀行論2： 中央銀行の役割(1)世界の中央銀行 (2)わが国の中央銀行(日本銀行)の機能					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義(60分；PBL含む) 小レポート(30分)	
8	金融政策1： (1)金融政策と財政政策 (2)日本銀行の政策と近年の動向 (3)統計					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義(60分；PBL含む) 小レポート(30分)	
9	金融政策2： (1)インフレーションと失業の選択 (2)ケインジアン vs.マネタリスト政策論争					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義(60分；PBL含む) 小レポート(30分)	
10	金融政策3：(1)マネタリズムとは何か (2)新自由主義経済学 (3)合理的予想理論を導入したマクロ経済学					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義(60分；PBL含む) 小レポート(30分)	
11	投資の経済学1： (1)投資とは何か (2)株式会社と株式市場 (3)投資の実際 (4)統計					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義(60分；PBL含む) 小レポート(30分)	
12	投資の経済学2： (1)指標・データの見方 (2)投資市場分析 (3)近年の動向					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義(60分；PBL含む) 小レポート(30分)	
13	バーチャル・マネー(仮想通貨)： (1)種類と解釈 (2)投資対象としての仮想通貨 (3)問題点					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義(60分；PBL含む) 小レポート(30分)	
14	保険の経済学： (1)リスクマネジメント (2)保険の基本構造 (3)生命保険 (4)損害保険					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義(60分；PBL含む) 小レポート(30分)	
15	本講座のまとめ					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義(60分；PBL含む) 小レポート(30分)	
教本： 適宜、資料を配布します。					参考文献： 初回講義日に提示します。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験またはレポート（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 勉強する項目は比較的多いですが、身近なトピックスもあります。必ずや今後の経済活動に役立ちます。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	グローバル化と文化A（Globalization and Culture A）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	安倍 宰								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： グローバル化という言葉は日々、耳にします。しかし、よくある「グローバルスタンダードに従うにはどうすればいいのか」という言説には一定の疑いを持ってみる必要を説くことを主な目的とします。文化人類学の立場から、広いまなざしで考察してみましょう。									
授業目標： 何をもってグローバル化と考えるのか、その基準を自分自身の中に作り上げること。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	グローバル化とはどのような現象か					事前：特になし 事後：なし		講義 90分	
2	文化のグローバル化					事前：特になし 事後：ノート		講義 90分	
3	経済人類学と交易港					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
4	経済のグローバル化と文化のグローバル化					事前：なし 事後：ノート		講義 90分	
5	リージョナリズムとローカリズム					事前：安倍論文（配布） 事後：ノート		講義 90分	
6	文化の支配－被支配					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
7	文化資本化の現象					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
8	世界的価値変動					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
9	SNS がグローバル化に果たしている役割					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
10	民俗文化とグローバル化					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
11	民俗文化とグローバル化 2					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
12	グローバル化を前にした生活文化の変容					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
13	グローバル化を前にした生活文化の変容 2					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
14	コスプレ文化はグローバルなものか					事前：自分とコスプレ 事後：授業資料		講義 90分	
15	まとめと復習					事前：なし 事後：なし		講義かレポート	
教本： 使用しません。					参考文献： 授業内で紹介する。たくさん読んでください。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（10%）、定期試験（70%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 多面的な人間社会の現実に照らし合わせて考えてみましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	グローバル化と文化B（Globalization and Culture B）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	安倍 宰								
履 修 条 件	前提科目	グローバル化と文化A							
	そ の 他	なし							
授業概要： グローバル化と文化Aを受けて、世界の文化のなかにおける日本文化の地位を論じてゆく。映画、アニメ、音楽などの海外向け日本文化と日本人にとっての日本文化は、どこが同じでどこが異なるのかを考えていきます。									
授業目標： 何をもってグローバル化と考えるのか、その基準を自分自身の中に作り上げること。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	グローバル化と文化Aの復習					事前：なし 事後：ノート		講義 90分	
2	日本映画のグローバル化					事前：なし 事後：ノート		講義 90分	
3	日本映画のグローバル化 2					事前：なし 事後：ノート		講義 90分	
4	映画にみる日本文化					事前：なし 事後：ノート		講義 90分	
5	「ゴジラ」の国際的評価					事前：なし 事後：ノート		講義 90分	
6	「ゴジラ」の国際的評価 2					事前：なし 事後：ノート		講義 90分	
7	「大魔神」					事前：なし 事後：ノート		講義 90分	
8	「大魔神」の国際的評価					事前：なし 事後：ノート		講義 90分	
9	「グレンダイザー」というアニメの物語					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
10	J-pop の成立					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
11	日本におけるロック					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
12	J-pop の国際的評価					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
13	洋楽と日本のポップミュージック					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
14	コスプレ文化とグローバル化					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
15	まとめと復習					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
教本： 使用しません。					参考文献： 授業内で紹介する。たくさん読んでください。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（10%）、定期試験（70%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 私たちがいかに常識や良識にとらわれているか、心を真っ白にする努力をしてみましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	グローバル経済・経営ガバナンス（Governance of Global Economy and Business Management）							科目分類	専門科目
担 当 教 員	高橋 敏哉								
履 修 条 件	前提科目	基礎科目として経済学、SDGsの政治経済学等の関連科目を既に履修していること。							
	そ の 他								
授業概要： グローバルに広がる経済活動やビジネスには共通の価値やルールが根付いてきています。環境、移民、資源、AIの在り方等も世界共通の課題です。各国の経済政策や企業の行動は無制約ではなく、様々な規範やルール、また処理の在り方等を遵守すべきものがあります。本講義では、グローバルな経済・経営活動に関係する制度、規範、ルールの現状とその変化について学びます。									
授業目標： ①グローバルな経済体制の変容について理解する。 ②企業経営にもその体制が影響していることを知る。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション：講義の全容を知る。					事前：各自の関心を高める 事後：配布教材学習		講義 45 分 対話式 45 分	
2	ガバナンスとは何か：政府 (government) とガバナンス (governance) の違いについて、基本的概念を学ぶ。					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義 45 分 対話式 45 分	
3	貿易・投資のガバナンス①：ブレトンウッズ体制の内容を知り、その成立と背景について学ぶ。					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義 45 分 対話式 45 分	
4	貿易・投資のガバナンス②：地域における自由貿易体制の成立とその限界を知る。					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義 45 分 対話式 45 分	
5	貿易・投資のガバナンス③：自由貿易への抵抗としての保護主義の諸相を学ぶ。					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義 45 分 対話式 45 分	
6	貿易・投資のガバナンス④： G 20、グローバルサウスの台頭の中で自由貿易の考え方はどのように変わってきたのかを知る。					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義 45 分 対話式 45 分	
7	開発協力のガバナンス：ブレトンウッズ体制での自由貿易の前提にあり、その後世界に共有される開発協力を知る。					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義 45 分 対話式 45 分	
8	開発協力の進展とその限界：開発協力は広く世界の規範となっているが、どのような限界があるかを学ぶ。					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義 45 分 対話式 45 分	
9	草の根からの開発協力：開発協力の問題について、裨益者の課題等を現場の NGO の視点等から学ぶ。					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義 45 分 対話式 45 分	
10	デジタル化の規制のガバナンス：企業活動にも大きく関わる AI、SNS 等への各国の規制の動きを学ぶ。					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義 45 分 対話式 45 分	
11	環境問題とガバナンス：SDGs 等で企業活動に定着しつつある環境問題へのグローバルなルールを知る。					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義 45 分 対話式 45 分	
12	グローバルガバナンスと経営①：グローバル経営において遵守すべき規範について、その変化を学ぶ。					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義 45 分 対話式 45 分	
13	グローバルガバナンスと経営②：グローバル経営において遵守すべき規範について、その変化を学ぶ。					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義 45 分 対話式 45 分	
14	グローバルガバナンスと経営③：グローバル経営において遵守すべき規範について、その変化を学ぶ。					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義 45 分 対話式 45 分	
15	まとめ：講義全体の総括をする。					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義 45 分 対話式 45 分	
教本： 教材は毎回配布しますので購入は不要です。					参考文献： 講義で紹介します。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加（積極的か否か。ただ出席するのではなく）とレポートで総合評価します。 授業参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（50%）									
学生へのアドバイス： 積極的に知識を付けたい皆さんの受講を希望します。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									